

令和7年度地域づくり加速化事業報告会

みんなで取り組む転倒・骨折予防
～ヘルスと介護の横断的取組み～

青森県大鰐町保健福祉課



大鰐町ゆるキャラ
もやっぴー

1 大鰐町の概要

<令和7年9月1日現在>

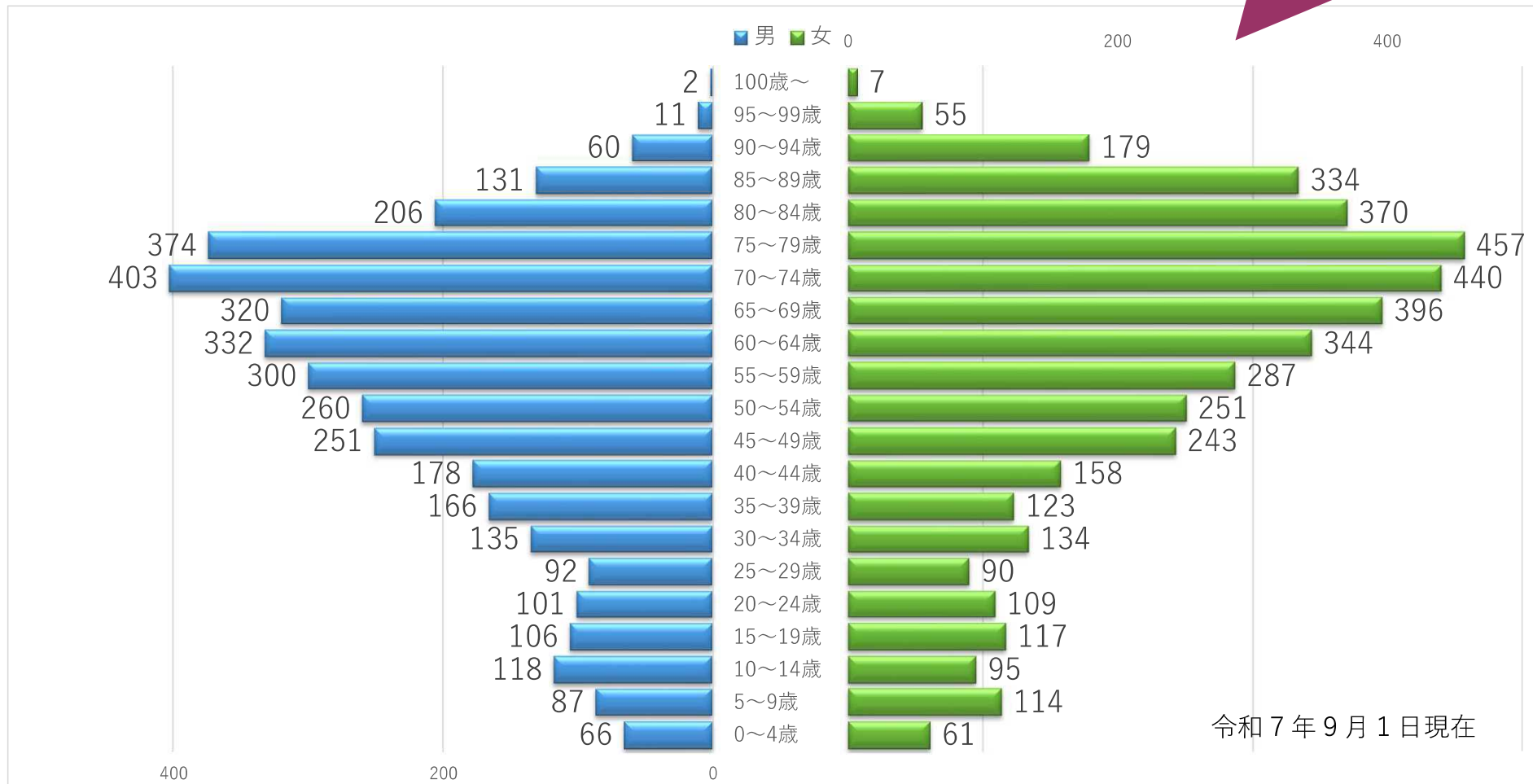
- 人口:8,063人
- 高齢者人口:3,745人
- 高齢化率:46.4%
- 後期高齢者人口:2,186人
- 後期高齢者割合:27.1%
- 日常生活圏域:1圏域
- 地域包括支援センター:1カ所(直営)



2 高齢者の概要

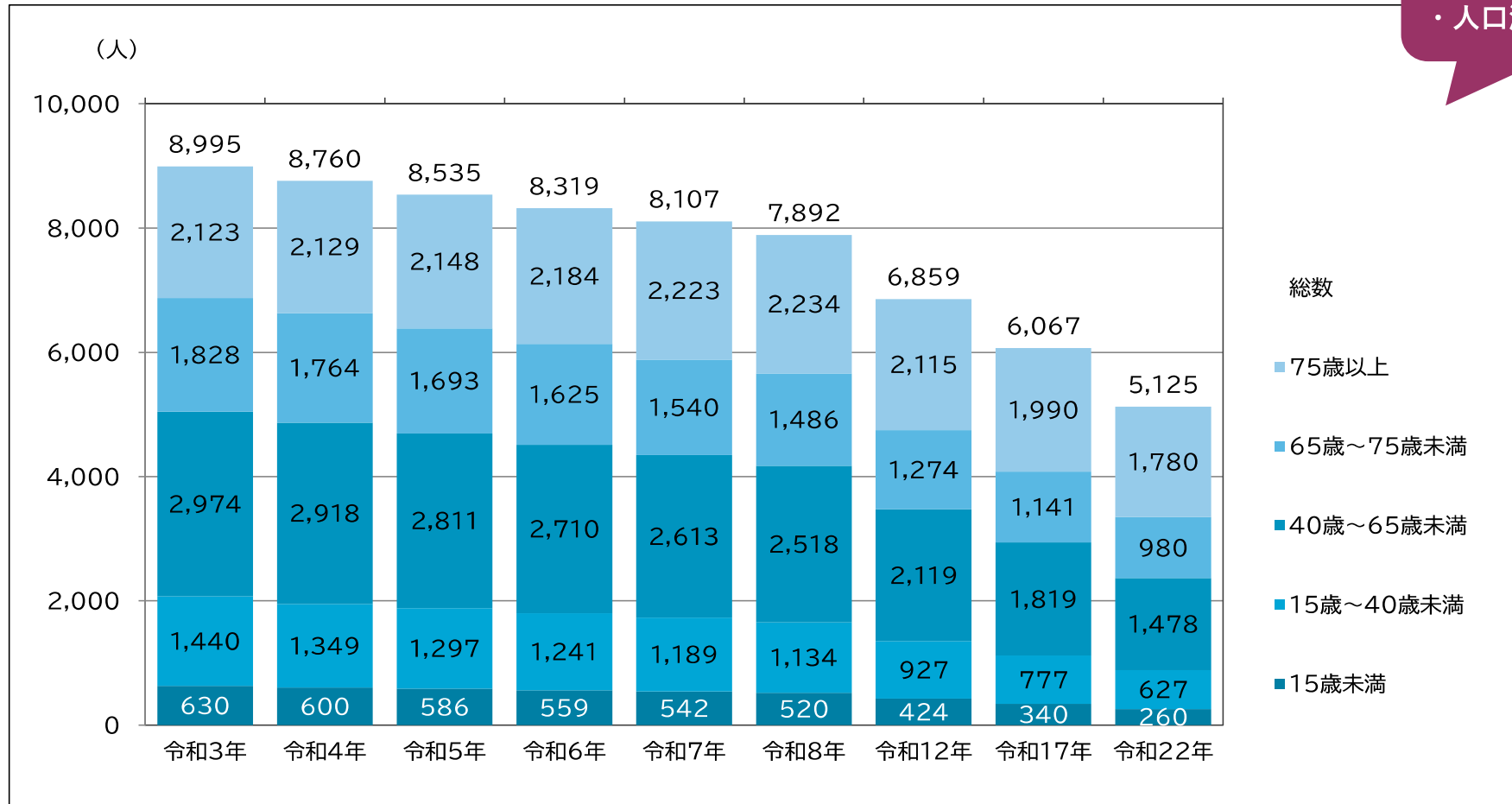
■ 人口ピラミッド（住民基本台帳より）

👉 **ポイント** 👈
75歳以上（後期高齢者）
の女性が多い！



■ 人口の推移

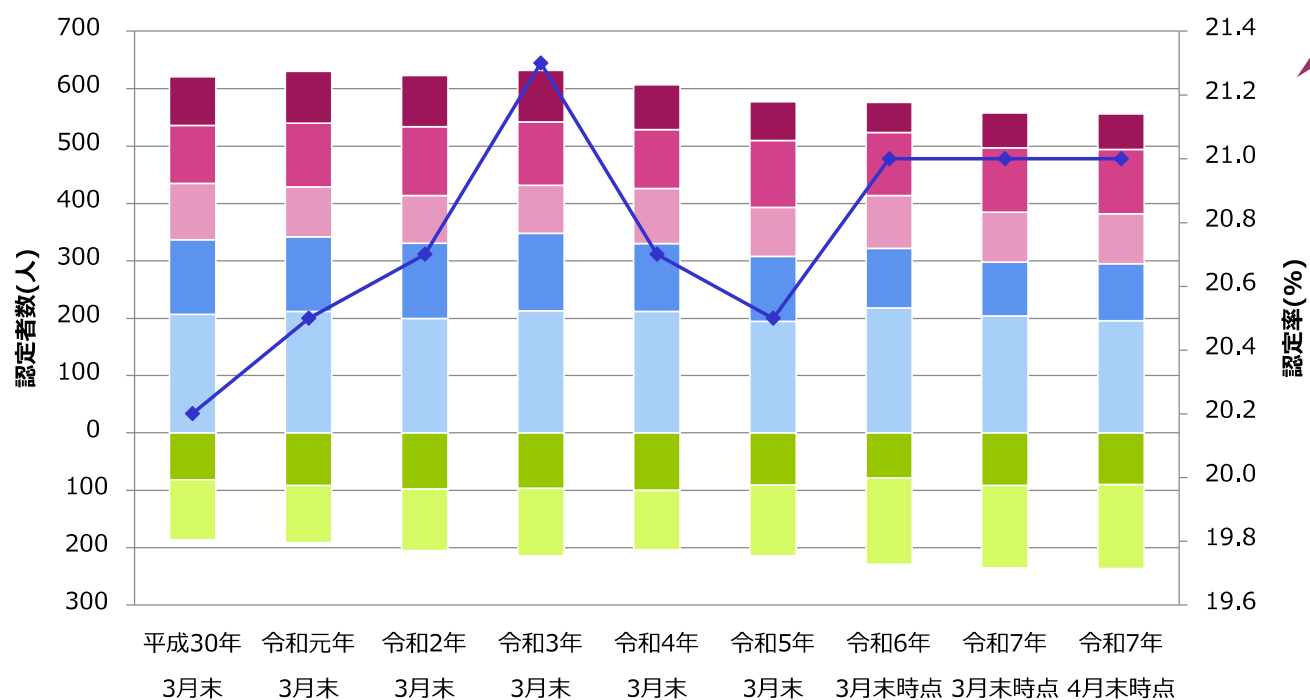
👉 ポイント 👈
 ・ 少子高齢化！
 ・ 人口減少が著しい！



(資料) 大鰐町高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画
 令和3年～5年まで：実績（住民基本台帳）令和6年以降：推計値



■ 要支援・要介護認定者数・認定率の推移（見える化システムより）



👉 **ポイント** 👈
 要支援1・2、要介護1
 の軽度の認定者が多い！

大鰐町の認定率の降順		
(令和6年5月末時点)		
青森県内	3番目	40保険者
全国	302番目	1,573保険者

認定率(%)

- 認定者数 (要介護5)
- 認定者数 (要介護4)
- 認定者数 (要介護3)
- 認定者数 (要介護2)
- 認定者数 (要介護1)
- 認定者数 (要支援1)
- 認定者数 (要支援2)
- 認定者数 (経過的要介護)
- ◆ 認定率

(出典) 平成29年度から令和4年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」、令和5年度から令和6年度：「介護保険事業状況報告（3月月報）」、令和7年度：直近の「介護保険事業状況報告（月報）」

3 昨年度の伴走支援を受けて

■ 取組

【介護予防を庁内連携し推進するため】

- ☪ 町の関係者間で様々な整理・検討の実施
- ☪ 各事業の目的、対象者像の整理

■ 得られた成果

- ☪ 庁内連携体制の強化
- ☪ 社会資源の掘り起こし、把握
- ☪ 各部門の事業の対象者像の整理

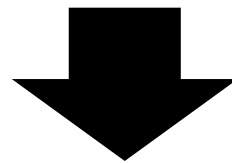


作業内容	開始	終了	担当者	備考	進捗状況	備考	備考	備考
対象者の把握・抽出の設定	2023.10.1	2023.10.31	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
対象者の把握・抽出の設定	2023.10.1	2023.10.31	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
対象者の把握・抽出の設定	2023.10.1	2023.10.31	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
対象者の把握・抽出の設定	2023.10.1	2023.10.31	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
対象者の把握・抽出の設定	2023.10.1	2023.10.31	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

4 今年度エントリーの動機

昨年の支援で成果は得られたが今後の事業を展開していくには

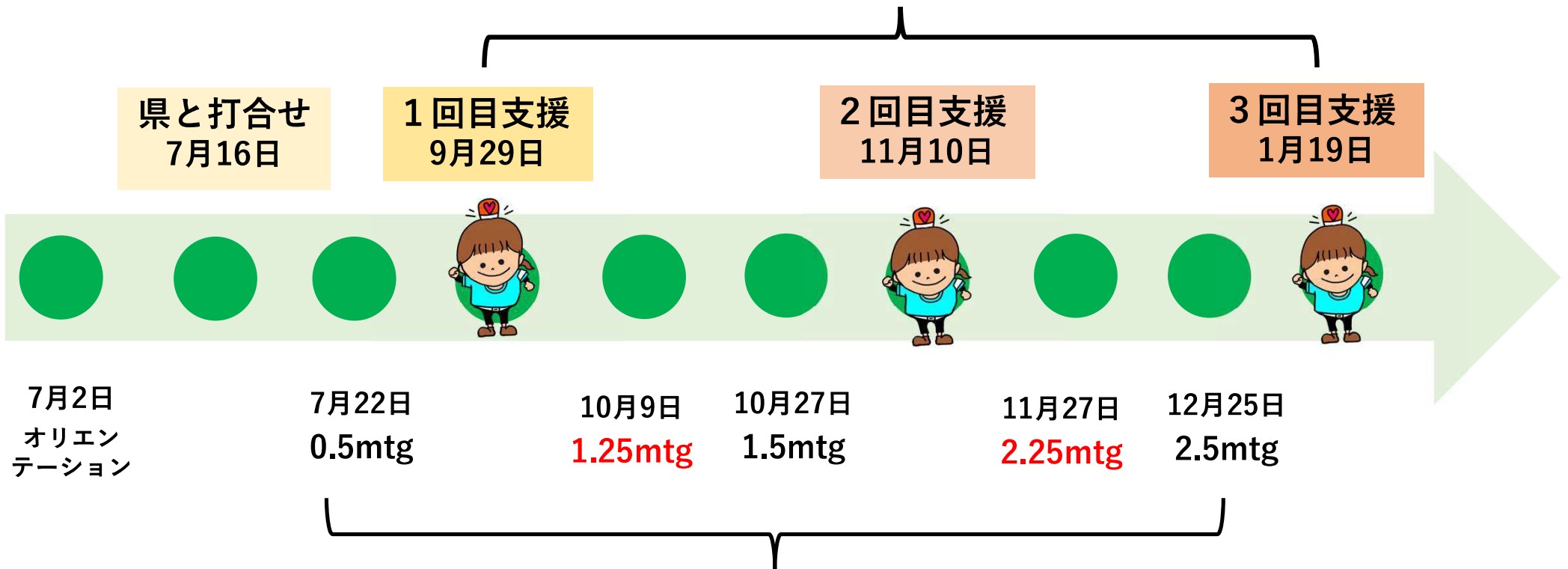
プレフレイルの方たちを早期に発見できる体制の構築はどうしたらできるのだろうか？



早期の気づきと支え合いの仕組みを整えることで、誰もが安心して暮らし続けられる地域にしたい!!

5 支援の流れ

現地での支援



オンラインにて支援者とともに支援内容の検討

🌀 第1回伴走支援（現地支援：9月29日）

内容：

- 加速化事業の概要説明
- 昨年度の振り返りと課題について
- 講義
 - ① ゆたかな生活・味わい深い生活は健康から 平川AD
 - ② 大鰐町キックオフにあたって 菊池AD
- 町に関する情報交換
 - 町職員以外の関係者から現状や思い、元気な高齢者について話を聞く

参加者：

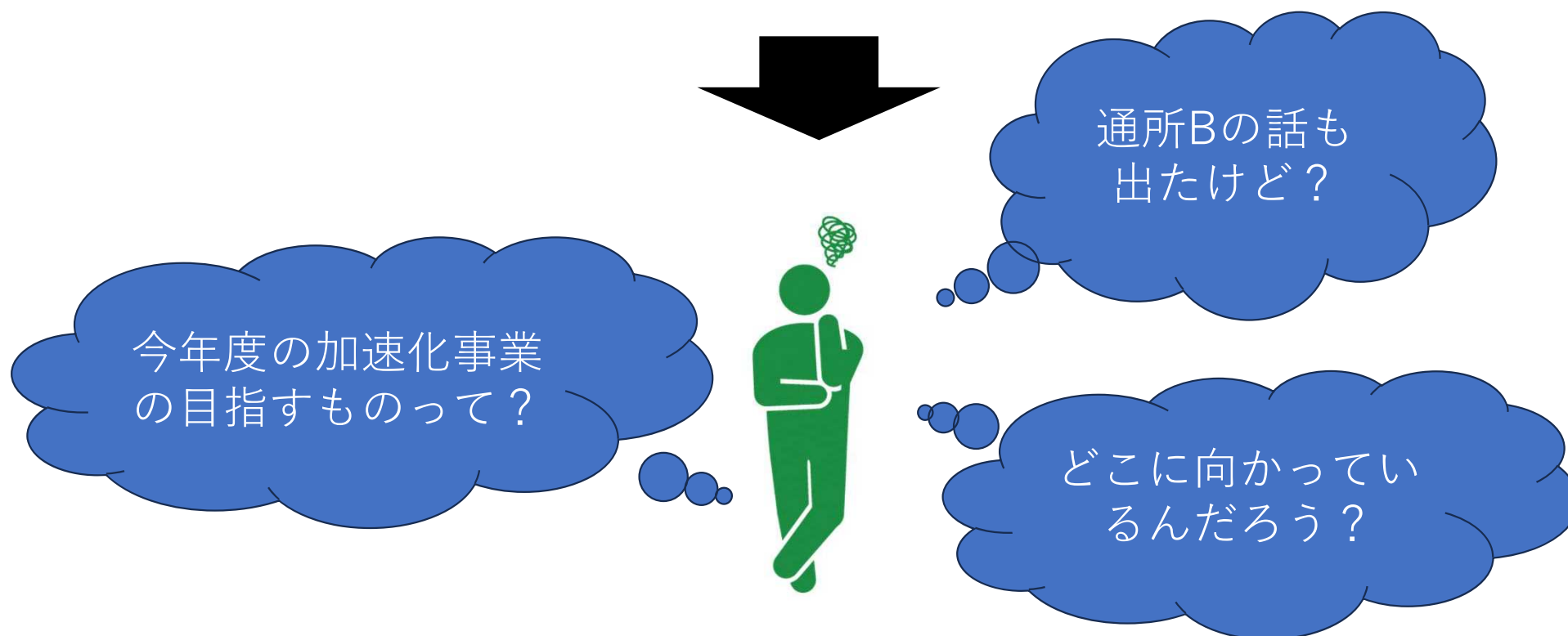
- 菊池AD、平川AD、厚生労働省、東北厚生局、青森県、保健所
- 町社協、SC、シルバー人材センター、社会福祉法人、居宅介護支援事業所
- 保健福祉課（介護保険・地域包括支援センター・健康推進）
- 住民生活課（国保（後期高齢））



🌀 第1回支援での気づき・学び



- 事業者の「総合事業」についての共有不足
- 予防と給付の違い、社会参加の意味を明確化する必要がある
- “元気な人が元気でいられる環境づくり”の重要性



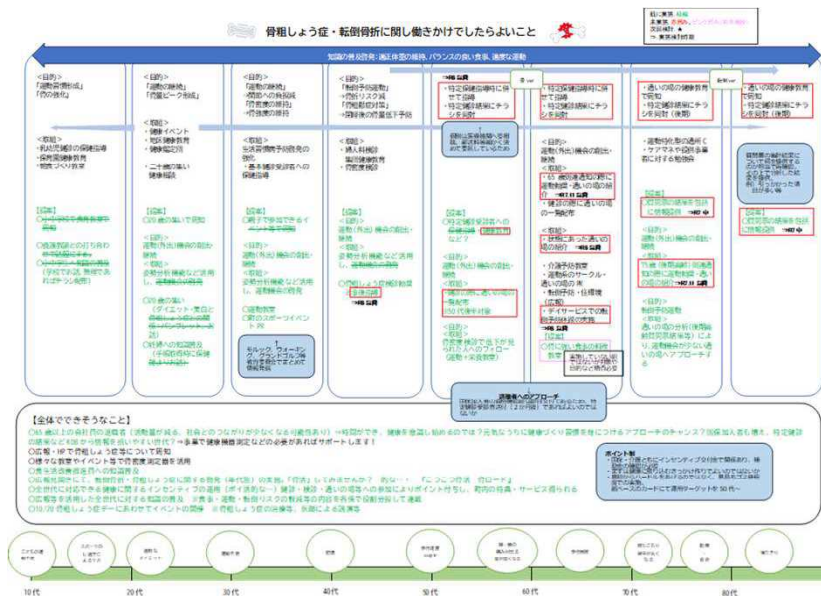
🔥 1. 25m t g (10月9日)

町の戸惑いを知った県の支援で、急遽実施が決定
話し合いの結果、昨年度からの成果をブラッシュアップした方が
わかりやすく、取り組みやすいとなり、

アドバイザーから

「骨粗鬆症予防のシートをロジックモデルを使って検討してみては」

という提案



🌀 第2回伴走支援（現地支援：11月10日）

内容：

- ロジックモデルの考え方について
- ワーク1
ロジックモデルを深めるための意見交換
- ワーク2
ロジックモデルの整理

参加者：

- 菊池AD、平川AD、厚生労働省、東北厚生局、青森県、保健所、
- 保健福祉課
（介護保険・地域包括支援センター・健康推進）
- 住民生活課
（国保（後期高齢））



🌀 第2回支援での気づき・学び



- 「事業ありき」から「住民のありたい姿」への転換
- 状況を具体的に整理し、対象者の具体的なイメージを持つことができた
- 必要データや視点が明確になったが、データ不足に気づいた



🌀 第3回伴走支援（現地支援：1月19日）

内容：

- ロジックモデルのふりかえり
- ワーク
 - ロジックモデルを深めるための意見交換
 - アウトプットの設定
 - それぞれのチームの発表
- 総合事業の活用について
- 次年度以降のロードマップについて
TODOリストの作成

参加者：

- 菊池AD、平川AD、厚生労働省、東北厚生局、青森県、保健所
- 保健福祉課
（介護保険・地域包括支援センター・健康推進）
- 住民生活課
（国保（後期高齢））



6 伴走支援を受けての成果



🌀 データに基づく課題分析の必要性

- ・各部署で持っているデータ等を活用し、町の現状および骨折・骨粗鬆症に至る背景を分析、共有できた。
- ・ヘルス分野（定量データ）と介護分野（定性情報）の視点を統合し、多角的に課題を捉える基盤を構築できた。

🌀 「ありがたい姿」から逆算する政策立案の視点の共有

- ・ロジックモデルを作成することで、事業ありきではなく、「ありがたい姿」から逆算する思考の重要性を再確認。
- ・現在できていること、不足していることの可視化

🌀 対話の場づくりが前進の一步

- ・得意分野の違いや視点の違いなど各係の強みや役割をお互いに認識し、継続的な対話をしていくことが、施策を進めるには必要不可欠と認識。

7 今後に向けて

🌀 ロジックモデルの活用

- ・ロジックモデルを活用し、事業等の具体化や優先順位づけをしながら、実施、効果検証と段階的に進めていく。
- ・第10期介護保険事業計画に取り入れる。

🌀 継続的な対話の機会を持つ

- ・月1回定例で話し合う機会を設け、進捗管理を行い施策を進めていく。



一步一步着実に



ご支援くださいました皆様に、心より感謝申し上げます。



ご清聴ありがとうございました

地域づくり加速化事業報告会 【青森県】



青森県健康医療福祉部高齢福祉保険課

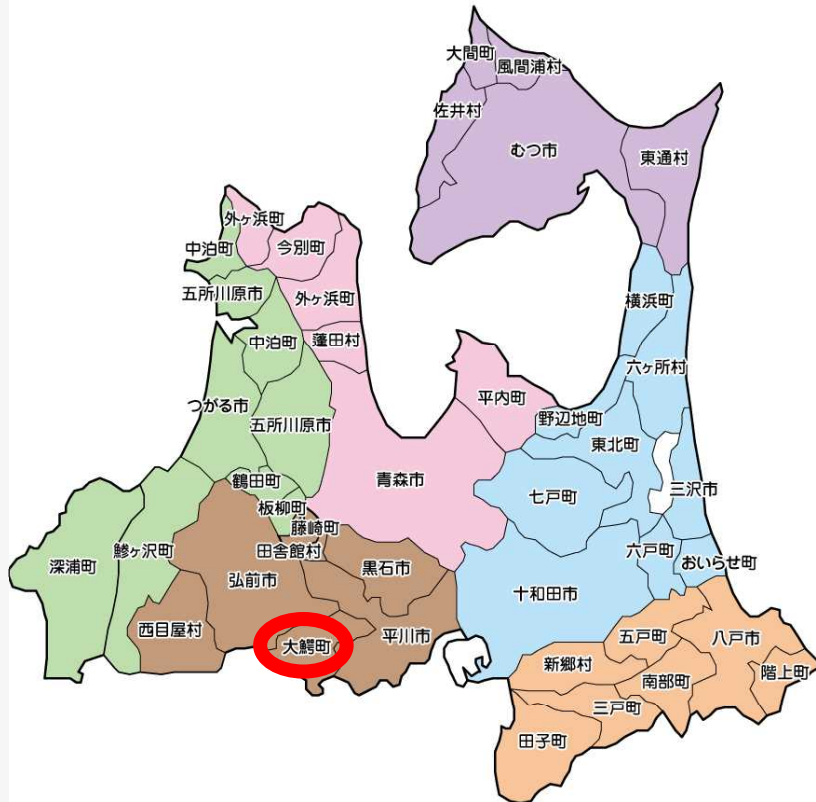
青森県の概要

人口 : 1,183,976人 (R7.2)

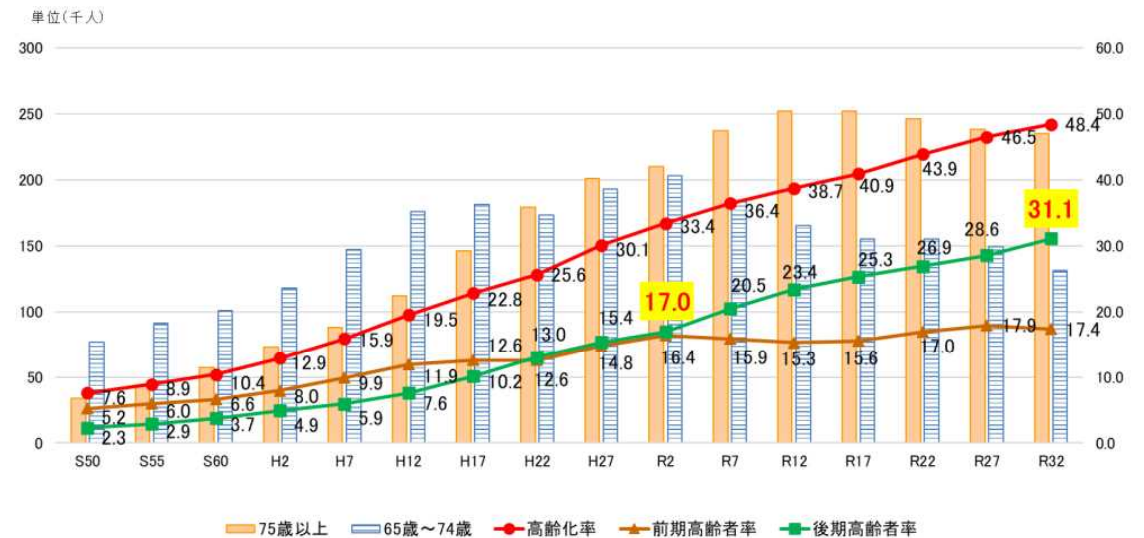
65歳以上人口 : 419,467人 (R7.2)

高齢化率 : 35.43% (R7.2)

管内市町村数 : 40市町村



後期高齢者率は令和2年の17.0%から令和32年には31.1%に上昇



(資料) R2までは国勢調査、R7以降は国立社会保障・人口問題研究所推計

全体の流れ・体制 [都道府県主導型伴走支援]

支援のタイムライン 進捗に合わせて「隙間のマネジメント」を行った。

町と県の意見交換	7月16日（水）	★追加開催★
0.5mtg	7月22日（火）	
1回目支援	9月29日（月）	町の課題説明・関係者との意見交換
1.25mtg	10月9日（木）	★追加開催★
1.5mtg	10月27日（月）	
2回目支援	11月10日（月）	ロジックモデルの意見交換、グループワーク
2.25mtg	11月27日（木）	★追加開催★
2.5mtg	12月25日（木）	
3回目支援	1月19日（月）	ロジックモデルの意見交換、次年度以降のロードマップ

支援チームの構成と役割分担

アドバイザー（技術・事務） ➡ 支援の流れを決める「中核推進役」
 県（総合事業担当、生活支援体制整備担当等） ➡ 支援全体の「調整役」
 本省・東北厚生局 ➡ 町・支援チームの「後方支援役」



本県による伴走支援の特徴

「つなぐ」役割と役割分担の最適化



支援開始前の地ならし

伴走支援開始前に町と県で意見交換し、支援の前提条件と期待値を早期に擦り合わせた。

隙間を埋めるマネジメント

もともと決まっている支援の間に「思考整理」のための追加ミーティングを設定した。「支援と支援の間をつなぐ」ことで、町が次のステップへ進めるようにフォローした。

役割分担の最適化

県は支援チームの「意図」と町の「実情」の間の翻訳機のような立ち位置。

本県による伴走支援後の取組 人材育成と横展開



地域人材の育成

県内専門職2名、町職員1名を本県の伴走支援アドバイザー候補者として依頼
➡ 東北厚生局主催の伴走支援人材育成研修会に参加してもらい、アドバイザーに必要なノウハウを習得してもらった。

県内市町村への横展開

総合事業に関する研修会を実施
➡ 厚労省アドバイザーによる伴走支援実践報告、模擬伴走支援を想定した座談会を実施した。

最後に すべての市町村で課題は異なる。画一的な支援ではなく、
地域の特性・ニーズに合わせた「オーダーメイドの支援」
が必要。

ありがとうございました





令和7年度 “地域づくり”加速化事業報告
八郎潟町における支援

八郎潟町 健康福祉課
地域包括支援センター

1. 八郎潟町の基礎情報



八郎潟町の概要（特徴）

- ・ 秋田県のほぼ中央に位置している
- ・ 秋田県で最も小さい町
- ・ ほとんどが平地
- ・ 自然災害が少ない
- ・ JR東日本の在来線は、約1時間に1本
- ・ 路線バスは、廃止
- ・ 南秋地域広域マイタウンバスとデマンドタクシー運行

- 国や都道府県から受けた支援テーマ（直近3年）
 - * 年度も記載ください
 - ・ 介護保険事業に関する保険者支援事業業務（令和4年・令和5年）



八郎潟町

HACHIROGATA TOWN



Hitoichi Bonodori



Beautiful sunset and lagoon



Hachiro Lake



伝統文化とみずうみの町

願人踊

秋田県指定無形民俗文化財

5月
5日
毎年

もともと願人踊とは江戸時代に全国各地で行われていた願人坊主（下層の僧）の門付芸能が発祥とされ、八郎潟町に伝えられたのはおよそ300年前と言われています。早いリズムに合わせて踊り手が力強く奔放な踊りを披露する途中、歌舞伎仮名手本忠臣蔵五段目の山賊「定九郎」と爺ちゃ「与市兵衛」がコミカルな寸劇で観衆を沸かせます。毎年5月5日の一日市神社祭典で奉納踊を演じた後、各家々を門付けして回ります。



このページの
先頭に戻る



一日市盆踊り

秋田県指定無形民俗文化財

8月
毎年 18日

~ 8月
20日

一日市盆踊り（ひといちぼんおどり）は、秋田県三大盆踊りの一つとされ、毎年8月18日から20日までの3日間、一日市商店街を会場に開催されています。歴史は古く、寛文2年（1662）、八郎潟町に「宿場」と「御伝馬所」が開設された頃から現在の形になったと伝えられています。昔は様々な踊りがありましたが、永い年月の間に「見る踊り」ではなくなり、いわゆる「踊る踊り」として大衆化し、現在ではテンポの速いくデンデンツク踊り><キタサカ踊り>、都から採り入れた優雅なく三勝踊り>の3つが伝承されています。浴衣姿や色とりどりの仮想をした踊り子が太鼓や笛の音に合わせて歌いながら踊る姿は、夏の風物詩の先頭に戻っています。

夏の風物詩の先頭に戻る

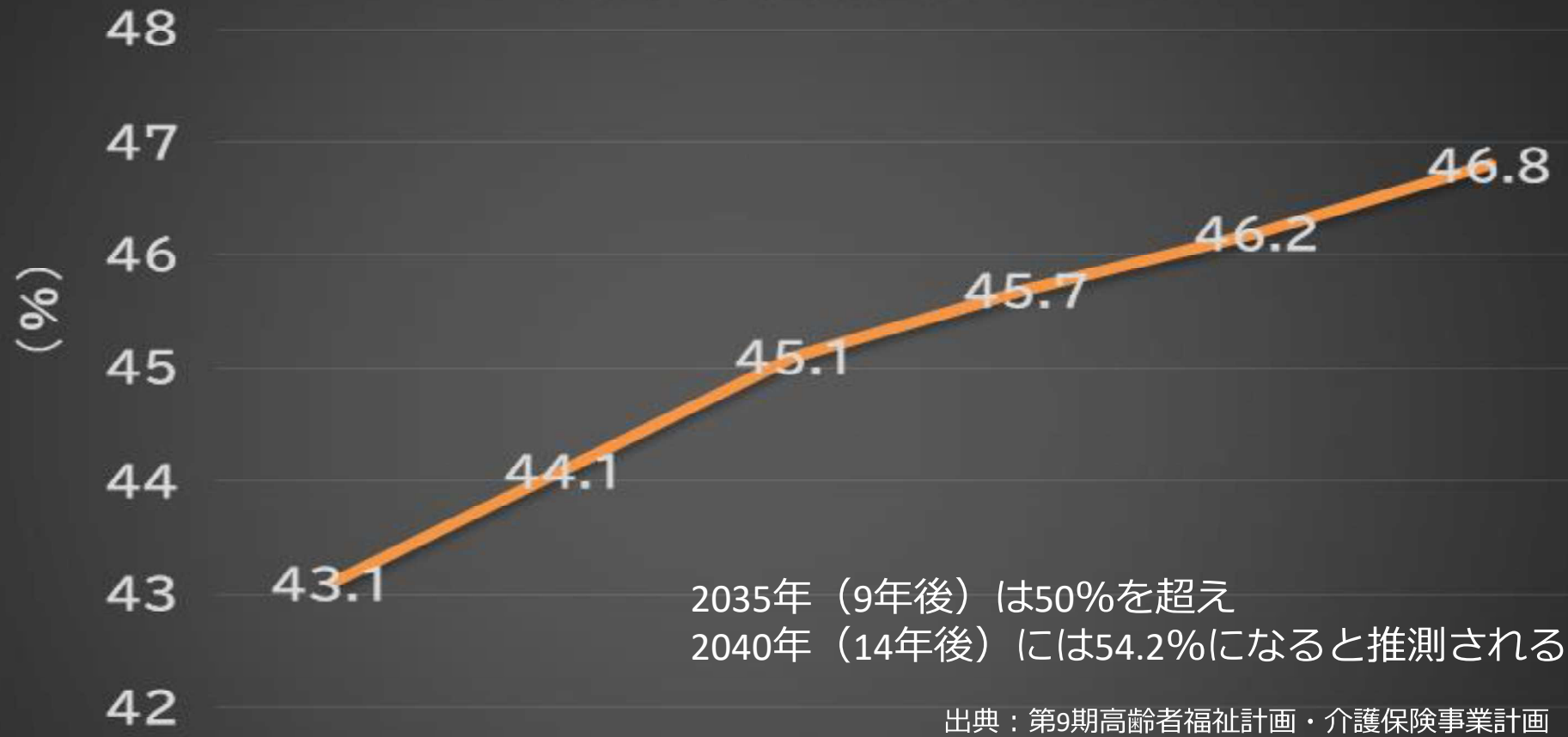


八郎潟町の基礎情報

基本情報

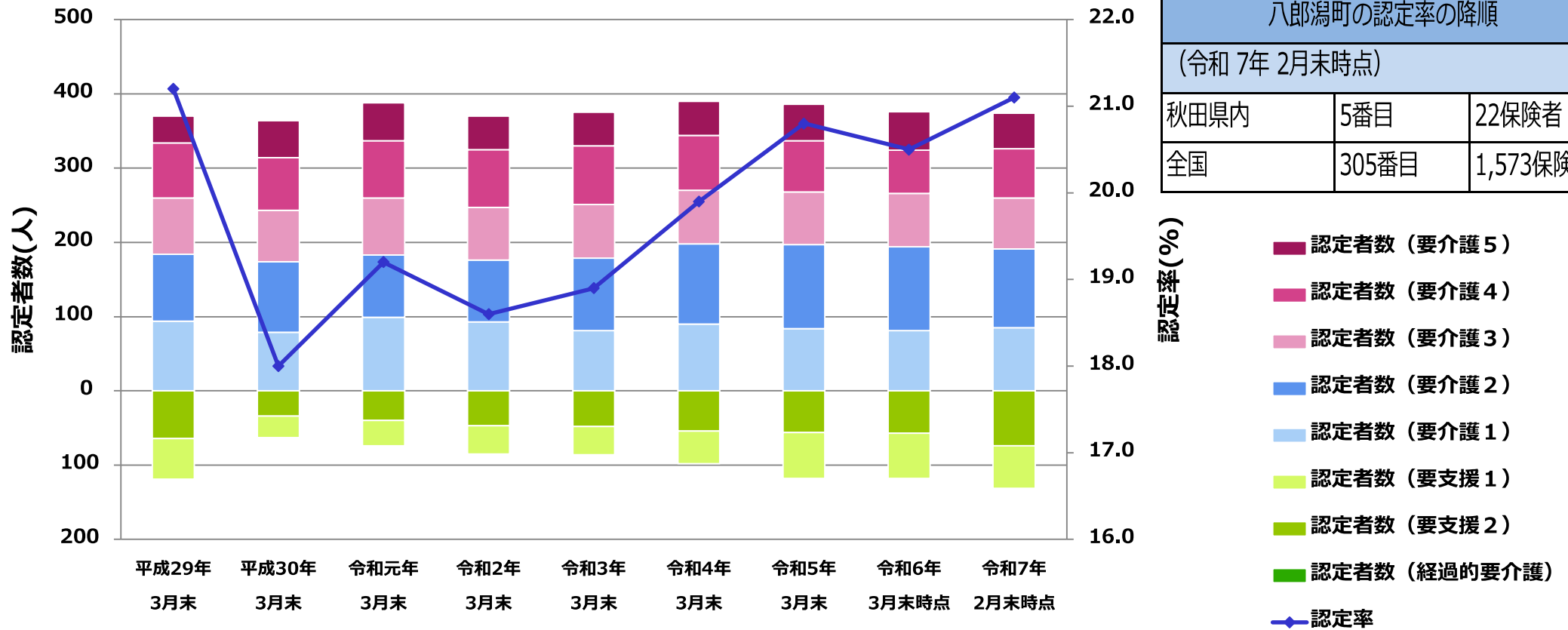
区分	数値	出典・時点
①総人口	5, 136人	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日
②高齢者人口	2, 402人	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日
（うち前期）	1, 024人	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日
（うち後期）	1, 378人	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日
③高齢化率	46.8%	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日
（後期高齢化率）	26.8%	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日
④認定率	7.3%	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日
⑤調整済み認定率	21.1%	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日
⑥第9期介護保険料（月額）	6, 900円	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日
⑦日常生活圏域	1	八郎潟町住民生活課令和7年4月1日

八郎潟町高齢化率(%)



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
— 高齢化率(%)	43.1	44.1	45.1	45.7	46.2	46.8

八郎潟町の要支援・要介護認定者数、認定率の推移



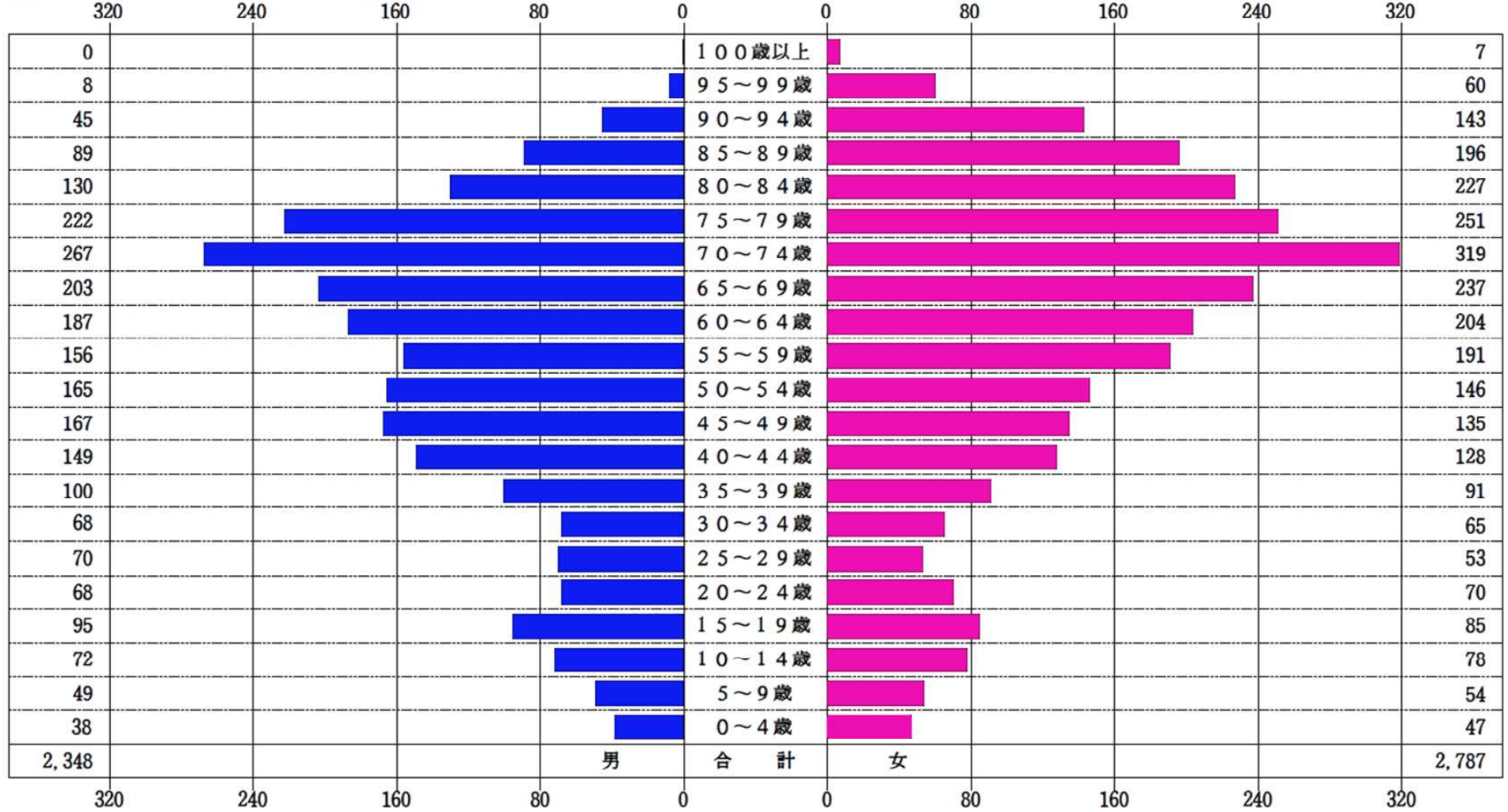
(出典) 平成28年度から令和4年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告(年報)」、令和5年度：「介護保険事業状況報告(3月月報)」、令和6年度：直近の「介護保険事業状況報告(月報)」

住民記録 人口ピラミッド

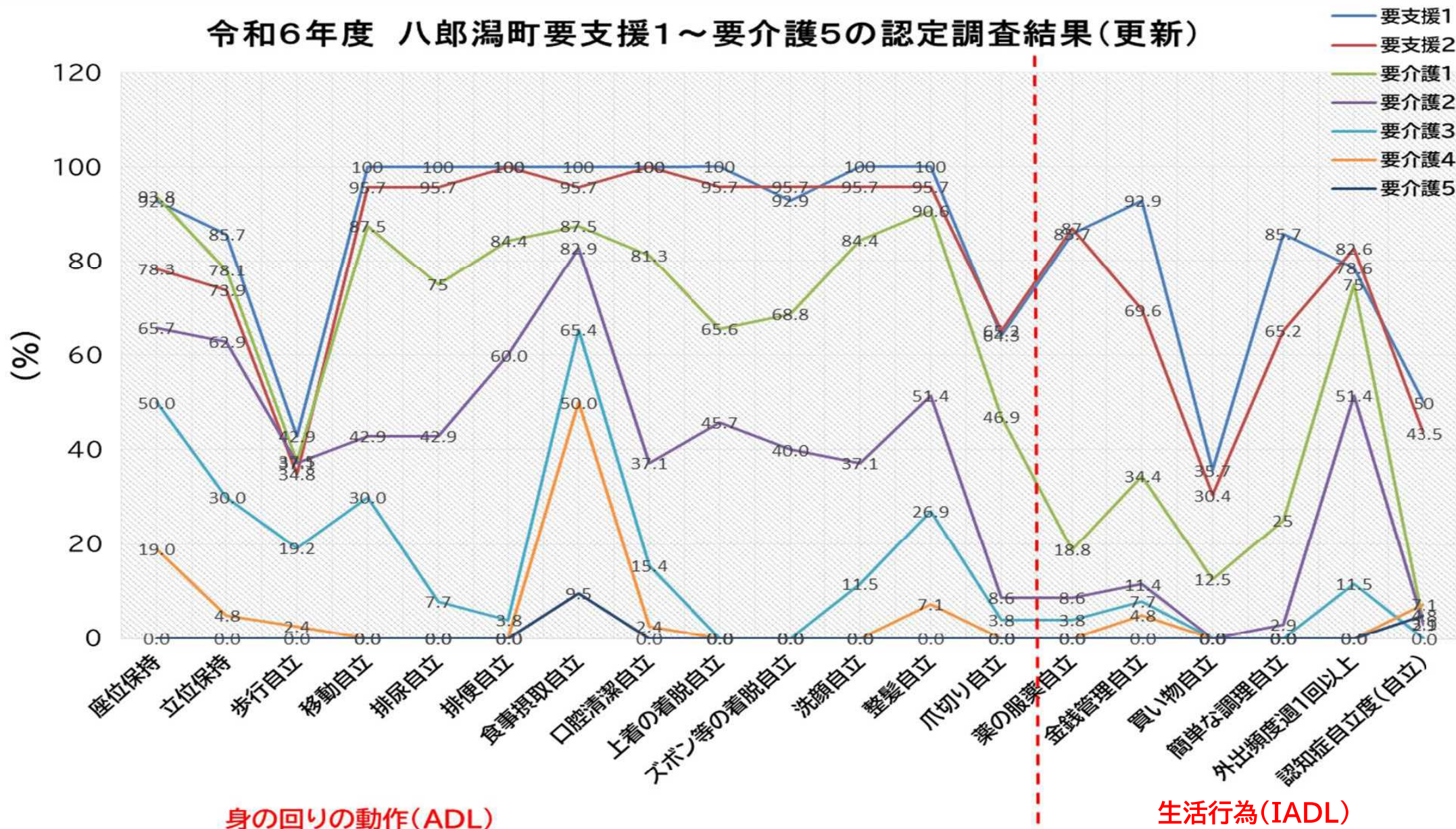
作成年月日：令和 7年 7月 8日

集計単位：年齢毎に集計
管轄：

対象者：日本人+外国人 年齢起算日：令和 7年 4月 1日 集計基準日：令和 7年 4月 1日 転出予定者：転出届出日で転出者とする
行政区： 大字： 小字：



令和6年度 八郎潟町要支援1～要介護5の認定調査結果(更新)

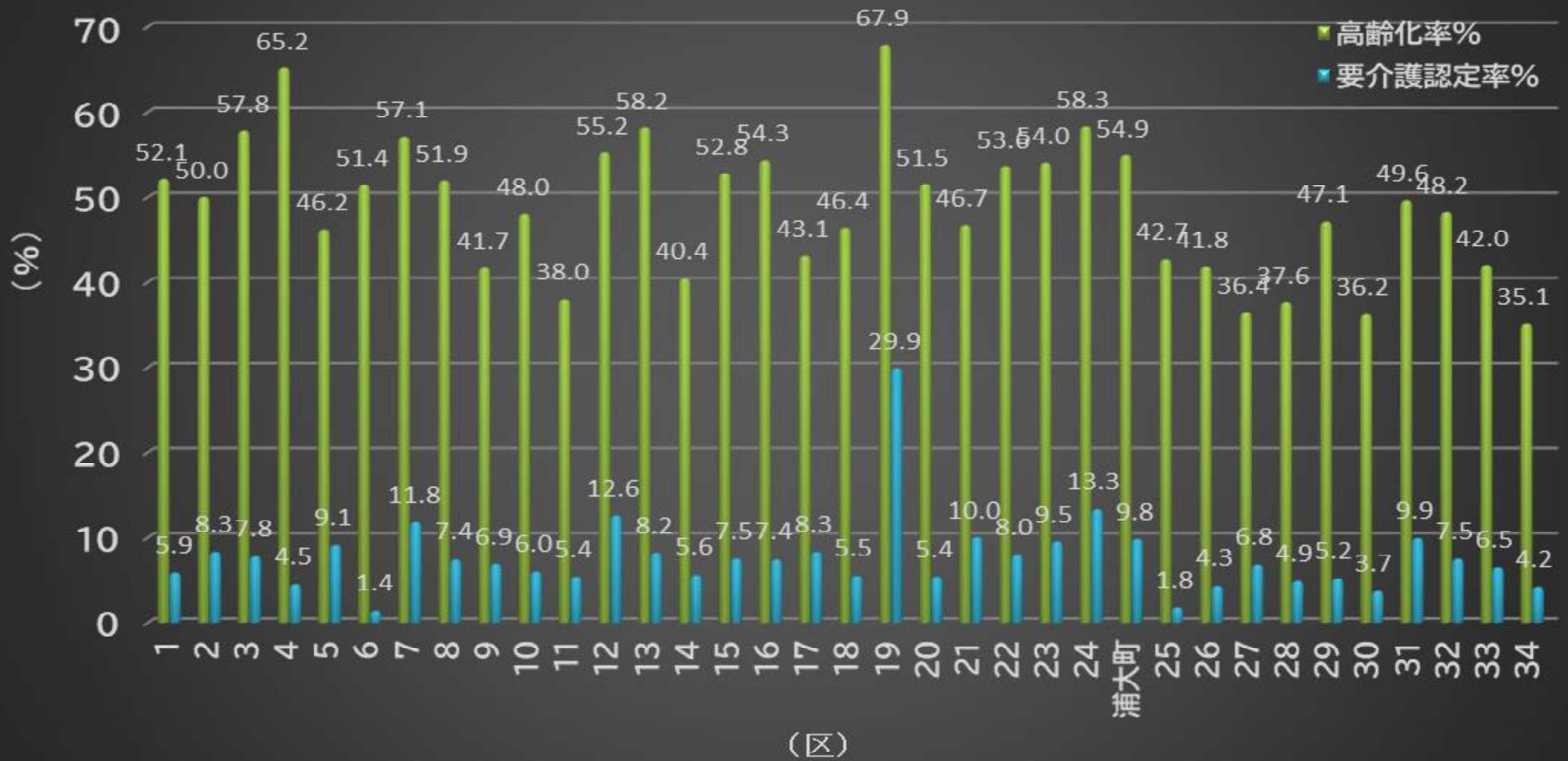


R6年度八郎潟町 要支援1～要介護5の認定調査結果(更新)

(%)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
座位保持	92.9	78.3	93.8	65.7	50.0	19.0	0.0
立位保持	85.7	73.9	78.1	62.9	30.0	4.8	0.0
歩行自立	42.9	34.8	37.5	37.1	19.2	2.4	0.0
移動自立	100	95.7	87.5	42.9	30.0	0.0	0.0
排尿自立	100	95.7	75	42.9	7.7	0.0	0.0
排便自立	100	100	84.4	60.0	3.8	0.0	0.0
食事摂取自立	100	95.7	87.5	82.9	65.4	50.0	9.5
口腔清潔自立	100	100	81.3	37.1	15.4	2.4	0.0
上着の着脱自立	100	95.7	65.6	45.7	0.0	0.0	0.0
ズボン等の着脱自立	92.9	95.7	68.8	40.0	0.0	0.0	0.0
洗顔自立	100	95.7	84.4	37.1	11.5	0.0	0.0
整髪自立	100	95.7	90.6	51.4	26.9	7.1	0.0
爪切り自立	64.3	65.2	46.9	8.6	3.8	0.0	0.0
薬の服薬自立	85.7	87	18.8	8.6	3.8	0.0	0.0
金銭管理自立	92.9	69.6	34.4	11.4	7.7	4.8	0.0
買い物自立	35.7	30.4	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
簡単な調理自立	85.7	65.2	25	2.9	0.0	0.0	0.0
外出頻度週1回以上	78.6	82.6	75	51.4	11.5	0.0	0.0
認知症自立度(自立)	50	43.5	3.1	2.9	0.0	7.1	4.8
人数	14	23	32	35	26	42	21
%	7.3	11.9	16.6	18.1	13.5	21.8	10.9
平均年齢	82.6	84.1	86.4	86.4	86.6	86.2	87.9
総数 193件							

地区別高齢化率と要介護認定率の比較



令和5年5月～6月実施の生活圏域ニーズ調査では

●世帯構成

夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)・・・28.0%が最も多く 1人暮らし・・・20.2%
とあわせると、半数近くが65歳以上の高齢者のみの世帯

●どのような条件が整えば「集いの場・介護予防教室」へ参加したいか？継続して参加したいと思うか？

通いやすい、身近な場所で開催している・・・46.6%

参加者同士が交流できる・・・29.5%

運動や体操が出来る、内容や雰囲気などの情報が手に入る・・・23.9%

●地域活動への参加意向・・・53.0% あったが、 企画・運営としての参加意向は、33.4%と低下する。



令和4年11月～令和5年6月実施の在宅介護実態調査によると

●調査対象者の要介護度

要支援2・・・24.6% 要介護1・・・23.0% 要介護2・・・19.7%
要支援1、2・・・39.3% 要介護1、2・・・42.6%

●施設等への入所・入居検討状況

入所・入居は検討していない・・・91.8%
今後も在宅生活の継続を希望する・・・90.2%

在宅の要介護者の9割は入所・入居を希望しておらず、在宅での生活の継続を希望している

●高齢者の経済状況

経済的に“苦しい”(「大変苦しい」、「やや苦しい」)・・・35.7%

何らかの介護・介助サービスは必要だが現在は受けていない人の51.7%が経済的に“苦しい”としています

・八郎潟町の課題から……………これから(支援いただく前の決意)

・子供がいない。子供を産み育てる20歳～の世代もごく少数となっている。地域を守り住み続けるためには、高齢者の元気と力が欠くことのできないものとなっている。

・高齢者の元気と、町民が主体となって動く・活動する地域の支え合いを構築する事をパワーアップして今、始めることが重要となっている。

・八郎潟町でも令和6年度新規介護保険認定調査データから要支援者は、身の回りの動作(ADL)よりも生活行為(IADL)の不自由さからとなっている。その面を地域で支え合いカバーできれば介護保険によるサービス利用者を減少させることが可能となる。

・認知症予防、介護予防、自然災害の激甚化・頻発化への備えの為に、現在開催している介護予防事業、健康づくり事業と並行して新たに交流の場を作り、そこから出た地域の課題に取り組んだり、悩みごとの相談できる場であったり支え合いの輪を強くする地域づくり“サロン”を開催します。

・まだまだ、具体的に示すことができません。町民が主体となって自主的に活動してもらうための仕組みづくりとは？についてご指導いただき取り組みます。

・地域づくりが進み、**結果として介護サービスに頼りすぎない町**になること。

・フォーマルなサービス活動の状況

名 称	対象者	対象地区	令和6年度 平均参加 人数	R6年度 平均年齢 年齢層	特 色	強度
筋筋クラブ	男女	全町	21.8	74.17	筋力の維持向上、転倒予防	中
からだスッキリ運動教室	男性	全町	10.1	74.61	他教室では男性参加者が少ない為、男性に特化	中
ストレッチ教室	男女	全町	19.1	77.06	筋力の維持向上、転倒予防。参加者全員女性	中
からだいきいき運動塾	男女	全町	29.6	71.72	他に比べ少し“きつめ”な運動を実施	強
寿山荘おたっしゃくらぶ	男女	1,2,3、11区	8.7	81.94	地域に出向いての教室。筋力の維持向上・転倒予防。 令和7年度から口腔ケア、栄養改善プログラムも実施。	弱
高岡おたっしゃくらぶ	男女	18～24区	10.1	74.07	地域に出向いての教室。筋力の維持向上・転倒予防。 令和7年度から口腔ケア、栄養改善プログラムも実施。	弱
川崎おたっしゃくらぶ	男女	26区周辺	7.6	73.63	地域に出向いての教室。筋力の維持向上・転倒予防。 令和7年度から口腔ケア、栄養改善プログラムも実施。	弱
かだっこさろん(弁天)	男女	会場周辺	—	—	令和7年度から実施。フレイル予防、筋力の維持・向上。 脳トレなど認知症予防。	弱

・フォーマルなサービス活動の状況

名 称	対象者	対象地区	令和6年度平均参加人数	R6年度平均年齢 年齢層	特 色
認知症カフェ(年2回)	男女	全町	22.5	60~80歳	主に認知症の方とそのご家族が対象だが、学びたい人誰でも参加OK！認知症に関するためになる講話とカフェタイムも楽しめる。
介護予防大学(年2回)	男女	全町	45	60~80歳	豊かな老後に向けた心と体の健康づくり、介護予防講座。
弁護士無料相談(5回)	男女	町在住者	12	—	法律に関する心配ごとを気兼ねなく相談できる。県弁護士会に弁護士派遣を依頼。
やすらぎ交流会	男女	町在住者	44	83歳	高齢者が生きがいを持ち、仲間づくりと楽しい老後生活を送れるように、講演会、移動学習会、交流会を実施。学習会は年10回開催。

・交通支援として

南秋地域広域マイタウンバス……近隣2町村の商業施設や駅、病院など等を運行。

広域デマンド型乗合タクシー……隣り町との連携で自宅から拠点となっている50施設までの移動支援を行っている。運行時間が6パターンあり運行時間の1時間前までに予約が必用。



・インフォーマルなサービス・活動している団体の状況

名 称	地 区	参加人数	特 色
かだっこさろん (ロマンの里)	会場周辺	20人	令和7年度から自主運営となった。フレイル予防、筋力の維持・向上、転倒予防。脳トレなど認知症予防。参加者同士の交流。
よらいばタクシー	全町		介護タクシー
さくらサークル	全町	11人 (町外3人)	筋力維持・向上、転倒予防。60歳代からの夜開催の運動量多めの自主運営教室。毎週水曜日18時20分～19時50分。会費2,000円。
きら星★サークル	全町	20人	筋力維持・向上、転倒予防。60歳代参加の運動量多めの自主運営教室。毎週金曜日の午後開催。
シニアパワークラブ	全町	25人	筋力維持・向上、転倒予防。60歳代男性主体で運動量多めの自主運営教室。毎週水曜日の午前実施。
八千代会	2区町内	5～6人	第2・4金曜日、昼食持参で会話を楽しむ交流会。
仲町むつみ会	5・6区	約10人	75～90歳代が年に2～3回、お昼をはさんで交流。弁当は注文。
28区サロン	28区	6～10人	毎月14・28日9時から16時まで開催。28日は会場である大道地域公民館の清掃を行うということで28区町内会より月2,000円の補助あり。14日は歌をうたったり認知症予防になるレクレーションを行う。弁当は各自持参。
真坂サロン	真坂	10人	真坂おたっしゃくらぶ終了後に開催。お茶とお菓子で交流。

・インフォーマルなサービス・活動している団体の状況

名 称	地 区	参加人数	特 色
寿山荘	2・11区	2～3人	町の無料開放施設。火・木は入浴あり。テレビや冷暖房完備、高齢の方達が弁当持参で終日交流。最近、利用者減少。
弁天荘	周辺地区	5～6人	町の無料開放施設。火・木は入浴あり。テレビや冷暖房完備、高齢の方達が弁当持参で終日交流。
4区女子会 (中高年の女組)	4区	9人	子供会の親の会からのママ友の皆さん。子供達が大きくなったが皆で集まろうと始まった。午後1時～4時までおしゃべりに花が咲く。会場は、はちラボ2階。
浦大町コミュニティセンター	会場周辺地区	5人	毎週火・土曜日、10時～15時。会話を楽しんだりくつろいだりして過ごす。会場費などの為、一人300円徴収。
麻雀の会	浦大町	5～6人	認知症予防になる麻雀と交流を地区の男性で楽しんでいる。朝9時から開始、昼食を摂り夕方からは一杯やって交流を深めている。午後8時頃終了。
斉藤カラオケの会	カラオケ好きな人	10人	カラオケ好きな人が集まり思い存分歌う。毎週土曜日午後7時～10時まで。得意料理を持ち寄り楽しみお酒は無し。会費700円。
プロジェクト8	全町	約30人	若者を中心に町を盛り上げようと活動。イベントとして毎年一夜市を開催。中学校吹奏楽部の演奏やお笑いライブ、ダンスパフォーマンス、打ち上げ花火などを行う。
さんしゅう	全町	同士5人	空き店舗を活用し現役時の技を生かして刃研磨や自転車修理など壊れて困ったことに安価で対応。ボランティア感覚で活動。

・インフォーマルなサービス・活動している団体の状況

名 称	地 区	参加人数	特 色
ラジオ体操の会	5・6区	7人	6:30～6:45までラジオ体操で体を動かしその後15分程皆で会話を楽しみ交流。自分で作った野菜のおすそ分け等あり。
4区ラジオ体操(中高年の男組)	4区	8人	郵便局前にて67歳～85歳の男性ラジオ体操の会。雨の日は、商店のカレージでの実施。ラジオ体操以外でも折に触れ交流。
7・8区ラジオ体操の会	7・8区	5人	雨の日も雪の日もラジオ体操を実施。その後、5～10分程度町内の散歩で体を動かし健康維持に努めている。
4区次世代のlineグループ	4区	8人	30～50歳代の中高年の息子世代でのグループ。取り組みとして中高年の男女組を対象にスマホ教室を開催など。
はればれサロン	全町	10人	心の健康づくりのためメンタルヘルスサポーターが主体となって開催。お茶を飲みながら皆さんと話しっこするサロン。大本は自殺予防対策。
工藤菓子屋の会	近隣	5～6人	毎日入れ替わりで男女いろいろな人が工藤さん宅を訪問。何をしてもなくお茶を飲み世間話でのんびりと過ごす。以前、菓子店を営んでいたのも夫婦とも人あたりが良く訪ねやすいお宅。会話し気分転換になっている。なかなか無い高齢男性の交流。

・インフォーマルなサービス・活動している団体の状況

名 称	地 区	参加人数	年齢層	特 色
八郎潟町民謡同好会	町内外	17人		毎週火曜日17時～21時。民謡を皆で歌い楽しむ。月会費1,000円。
八郎潟町パッチワーク同好会	全 町	11人	70～80	月3回月曜日10時～12時。自分の色で自分だけの小物、タペストリー、ベットカバー等をパッチワークで作成。月1,000円同好会日200円。
八郎潟町卓球協会	全 町	20人	平均60歳	毎週木曜日19時～21時。初心者から上級者まで卓球を楽しむ大会出場に向けて技術の向上。町体育館から冬季12月～3月は、メモリアル会館。年会費2,000円。
詩吟同好会	全 町	3人		第1,3,4木曜日13時30分～15時30分。詩吟を通じて親睦、自己の修養。詩吟教本等の代金。
エコクラフト	全 町	4～5人	60～70	毎週第2・4水曜日9時～12時開催。紙バンド手芸、クラフトテープでカゴ、バック、小物づくりで手を動かし物づくりの楽しさを知る。月会費1,500円。
八郎潟町俳句研究会「はちく」	全 町	3人		月末最終木曜日10時～12時。俳句を楽しむ。
八郎潟町グランドゴルフ協会	全 町	40人		毎月第1・2・3水曜日13時～15時。親睦と健康増進を図るとともに地域社会の発展に寄与する。年会費2,000円。
八郎潟町弓道協会	全 町	13人		毎週火・金曜日18時30分～20時。

・インフォーマルなサービス・活動している団体の状況

名称	地区	参加人数	年齢層	特色
清流会	川崎	14～15	70～75	年2回、農業に従事している家庭の女性達による川崎地区の水質調査、ゴミ拾い。活動後、お菓子とお茶で交流。
神社氏子の会	浦大町			合同春祈禱や年末に神棚へのお札配布等の挙動作業後に皆で交流。
羽立・作業小屋の集い	羽立	2～3	80～85	週1回午前か午後の半日、皆でよもやま話。お供に、がっこ、お菓子、お茶。がっこちゃっこの会。
羽立・畑の集まり	羽立	4～5	60～80	天気の良い日で畑作業している数名が雑談し交流している。
小野ガラスの茶っこ飲み	6区	2～3	78～81	毎日、午前か午後のどちらかの時間に小野ガラス宅を訪れて“がっこちゃっこ”で雑談。心配ごと、困ったこと等助け合っている。
15区の集い（仮称）	15区			民生委員や元社協会長らが先に立ち自主的サロンを準備中。健康に関する事や楽しい催し物、施設見学など年齢を問わず参加できる集いを年4回開催予定。

・第1回支援日までの取り組み

- ① 八郎潟町の基礎情報作成
 - ② 町内34地区別年齢別人口の見える化
 - ③ 町内34地区別年少人口、高齢者人口の比較・見える化
 - ④ 町内34地区別要支援率、要介護認定率の比較・見える化
 - ⑤ 町内34地区高齢化率と要介護認定率の比較・見える化
 - ⑥ 町内のフォーマル、インフォーマルな活動・サービスの調査
 - ⑦ 民生委員協議会、3地区町内会長への地域づくりの意義・活動説明
 - ⑧ 生活体制整備事業“サロン説明会”町内3か所で始動
 - ⑨ 一人暮らし高齢者宅を訪問し健康状態や困りごとのアウトリーチ。サロンへの参加勧める
- ◎ 八郎潟町のこれからに対して危機感を抱え“地域づくり”を担当者皆、強い思いで取り組もうとしていたが、どう動き出せばいいのか思案し、まずは地域資源や人口集計、介護に関わるデータ等々資料作成を行っていた。データで傾向を掴み、地域に合った関わり方とは？

八郎潟町1回目支援 タイムスケジュール

八郎潟町1回目支援 次第
 令和7年8月25日(月) 9:30~16:30
 (場所) 八郎潟町えきまえ交流館はちパル 交流ホール
 全体進行：秋田県庁／板書：鈴木AD

時間	内容	担当及び参加者
9:30	八郎潟町町役場集合～移動	
10:00	○サロン視察 * 住民さんとの交流含む	八郎潟町 支援チーム
12:00	お昼	
13:00	開会 自己紹介	* 新メンバーがいなければ割愛
13:10	○事業説明	厚生局(阿部)
13:20	○町からの現状・課題等の共有	八郎潟町
13:30	○ミニ講話：総合事業のポイント	荒井AD
14:00 * 適宜休憩	○午前中を踏まえて意見交換 ・八郎潟の課題の確認 ⇒支えあいや地域活動への参加等を踏まえ、住民主体でできそうなことなどを模索 ・サロン立ち上げ ⇒拠点としてどのようなサロンになるとよいか	荒井AD・鈴木AD 八郎潟町・関係者等 支援チーム
16:00	○振り返り 1回目支援の振り返りと1.5mtg(10/6)までに行うことの確認	八郎潟町 支援チーム
16:30	終了 (電車：17:08)	



(1回目支援後の課題)

- ・「地域になぜ集いの場“サロン”が必要なのか説明会を実施し、町民理解の上で多くの皆さんに参加してもらいたかったが・・・。」少ない参加者、特に男性。
- ・活動量の少ない閉じこもりの方をどう巻き込むか？
- ・地域の住民が自ら必要として集まり、地域の課題を見つけ、課題解決できるサロンを形成していく意識づくりが難しい。
- ・町の資源をマッピングし可視化することにより更なる情報収集の必要性和サロンをツールにその地区を良く知ることが不可欠である
- ・町民主体の自主活動サロンが町内に多く作られることを目指しているが総合事業に結びつけた考えは持っていなかった。総合事業ありきで“地域づくり”を考えていなかった・・・支援者チームの考え方との間に齟齬が生じているのではないか？

モヤモヤ



(1回目支援後の気づき)

- ・サロン活動は、「目的をもたない」事も大切！」
- ・実は、八郎潟町の強みが沢山あった(町民は私たちの想像以上に地区の事を良い意味で知ってる感心をもっている)
- ・いろんな角度からのアプローチが参加者増加につながる。トライ&エラーを恐れずに
- ・住みながら、繋がりながら、楽しみながらサロンを拠点として活用。サロンの存在が大事！その場があることが大事！
- ・地域には芸能人(芸事に限らずその道に秀でた方)沢山存在していた(人的資源)。サロン講師として活躍していただければ本人の自己有用感にもつながりwinwinの関係になるのでは？
- ・地域資源、人口動態、要介護者分布等々データで傾向を掴み地域に合った関わり方を考える
- ・“地域づくり”は、地域の自立支援
- ・目的を持って地域をデザインすること

・第2回支援日までの取り組み

- ① 八郎潟版介護度別認定に至った原因疾患の見える化
- ② 介護度別障害者・高齢者・認知症高齢者自立度の見える化
- ③ 町内34地区別避難行動要支援者数値化・見える化
- ④ 町内のフォーマル、インフォーマルな活動・サービスの深掘り・マッピング
- ⑤ 町内3か所での“サロン”活動
- ⑥ 2025年八郎潟町地域づくりロジックモデル作成(基礎知識無しで粗削り)
- ⑦ ゴールを設定してマイルストーンをおいていく作業
- ⑧ 2025年八郎潟町ガントチャート作成(基礎知識無しで粗削り)
- ⑨ 1.5mtgにおいて町側のモヤモヤ解消
- ⑩ 一人暮らし高齢者宅を訪問し健康状態や困りごとのアウトリーチ。サロンへの参加勧める
- ⑪ 目指すところを他の人に説明できるように言語化する。取り組みの進め方を具体化する。

八郎潟町2回目支援 タイムスケジュール

八郎潟町2回目支援 次第
 令和7年10月23日（木）9:30～16:30
 （場所）八郎潟町えきまえ交流館はちパル 交流ホール
 全体進行：秋田県庁／板書：鈴木AD

時間	内容	担当及び参加者
9:30	八郎潟町町役場集合～移動	
10:00	○浦大町サロン視察 * 住民さんとの交流含む	八郎潟町 支援チーム
12:00	お昼	
13:00	開会 自己紹介	* 新メンバーがいなければ割愛
13:10	○町からの現状・課題等の共有	八郎潟町
13:30 * 適宜休憩	○午前中を踏まえて意見交換 ・八郎潟の目指す姿の設定（規範的統合） ⇒サロン活動の意味づけ（サロンの立ち上げ、既存の活動との関係性構築の両輪で考える） ⇒地域の目指す姿のデザイン・ゴール設定・目的の共有 ・目指す姿の実現に向けた取り組みの検討 ⇒具体的に取り組むべきこと・マイルストーン等のアイデア出し	荒井AD・鈴木AD 八郎潟町・関係者等 支援チーム
16:00	○振り返り 2回目支援の振り返りと2.5mtg(11/25)までに行うことの確認	八郎潟町 支援チーム
16:30	終了（電車：17:08）	



(第2回支援後の 課題)

- ・町民の相談ごと、困りごとを吸い上げられる仕組みづくりと解決のためのネットワークづくり。相談できる場としてのサロンづくり
- ・地域づくりを進めていく上で他活動、他団体との連携が必要な場合のため、介入するのではなく関係性を築く
- ・“地域づくり”サロンの周知活動の強化。知る→つながる→生まれる(サロン情報紙作成・配布、SC紹介チラシの作成)
- ・民生・児童委員との連携、情報共有
- ・ロジックモデル、ガントチャートの見直し・修正

(第2回支援後の 気づき)

- ・雑談の大切さ。地区によってそれぞれ違う課題(困りごと)があり、解決手段もそれぞれ違う。
- ・特に町民の皆さんに接する際は、分かりにくい表現・伝え方をしない。誰にでも分かる伝え方や具体化、可視化する事。具体的にすることで何をすればいいのか考えやすく、整理でき、行動に移すことができる。



・第3回支援日までの取り組み

- ① 町内34地区別避難行動要支援者率見える化
- ② 町内の通いの場(フォーマル、インフォーマル)活動・サービスの更なる深掘り・マッピング
- ③ 町内3か所での“サロン”活動
- ④ 3地区での“サロン”情報の発行・配布
- ⑤ 一人暮らし高齢者宅を訪問し健康状態や困りごとのアウトリーチ。サロンへの参加勧める
- ⑥ “浦大町サロン”にて「困りごと」や「もっとこうなればいいのに」を地域(空き家、一人暮らし等)マッピング作業中に聞き取り。
- ⑦ 「八郎潟町なんでも相談」申し込み用紙作成・配布
- ⑧ 鈴木ADのご厚意によりSC周知チラシ作成。
- ⑨ 2025年八郎潟町地域づくりロジックモデル・ガントチャートの見直し・修正
- ⑩ 荒井ADの八郎潟町への大きな愛で！業務多忙の中、八郎潟町ロジックモデルの修正をしていただいた

八郎瀧町 3 回目支援 タイムスケジュール

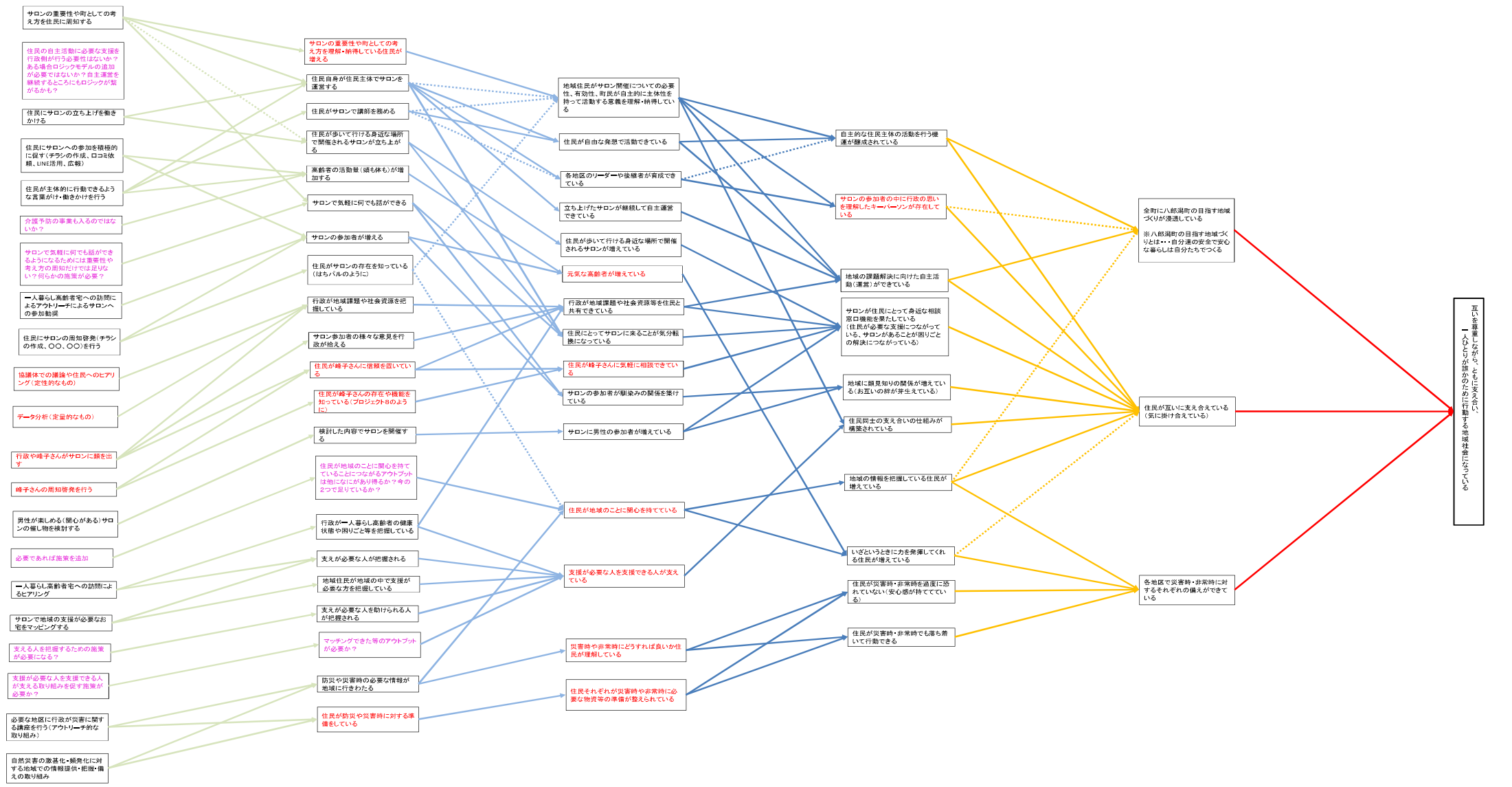
令和 8 年1月13日 (火) 9:30~16:30
 (場所) 八郎瀧町えきまえ交流館 はちバル 交流ホール
 全体進行：秋田県庁／板書：鈴木AD

時間	内容	担当及び参加者
9:30	八郎瀧町町役場集合～移動	
10:00	○ひふみサロン視察 * 住民さんとの交流含む	八郎瀧町 支援チーム
12:00	お昼	
13:00	開会	
13:00	○町からの経過報告	八郎瀧町
13:10	○ロジックモデルの説明	荒井AD
13:40 * 適宜休憩	○ロジックモデルのブラッシュアップ ○ロードマップのブラッシュアップ	荒井AD・鈴木AD 八郎瀧町・関係者等 支援チーム
16:00	○振り返り 3回目支援の振り返りと報告会及び次年度に向けて行うことの確認	八郎瀧町 支援チーム
16:30	終了 (電車：17:08)	



第3回支援後の気づき&成果

- 荒井ADに講義いただきロジックモデルの作成方法、活用法を学ぶことができた
- 事業を進めるうえでのロジックモデルやガントチャートの必要性・重要性を知ることが出来た
- 漠然と掲げていた八郎潟町“地域づくり”を具体的な言葉として表現できロジックモデルとガントチャートが作成できた。それにより活動を行動に移すことが容易になり、加えて次年度・今後の計画・評価指標が明確になった。
- 施策の進捗管理もできるので最終アウトカムの実現性を高めることが出来る
- KDBの活用で健康面からもアプローチすることでより充実した計画作成となることが分かった



プロジェクト	内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活課題に対応していきたいという意欲的であり集いの場(サロン)づくり ・自主的で町民主体の活動醸成 ・誰もが住み慣れた家でいつまでも暮らし続けられる為の地域支え合いのしくみづくり ・対象地区の多くの方に参加を積極的に促す ・高齢者QOLの維持向上を図り介護サービスを必要とする人を減らして地域の受け皿となる誰もが社会参加できる環境を整える ・自然災害の激甚化・頻発化に対する地域での情報提供・把握・備えの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン開催準備 ・地域診断 ・集いの場調査 	地域診断										
	サロン開催	サロン説明会資料 作成		民生委員への説明	町内会長宅訪問しサロン意義・趣旨・効果説明	サロン説明会チラシ配布	サロン開催	サロン開催	サロン開催	サロン開催	サロン開催	サロン開催
	地域づくり加速化事業 伴走支援	0.5mtg		ブラッシュアップ		第1回支援日	1.5mtg		第2回目支援日	マイルストーン		
	一人暮らし高齢者宅を訪問し健康状態や困りごとをアウトリーチ。サロンへの参加を勧める。	訪問活動										
	社会資源・地域の集いの場調査	社会資源・集いの場の調査										
	災害時要支援者の把握・数値化・みえるか	書類確認作業・数値化・みえるか										

プロジェクト	内 容	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活課題に対応していきたいという意欲的であり集いの場(サロン)づくり ・誰もが住み慣れた家でいつまでも暮らし続けられる為の地域支え合いのしくみづくり ・対象地区の多くの方に参加を積極的に促す ・高齢者QOLの維持向上を図り介護サービスを必要とする人を減らして地域の受け皿となる誰もが社会参加できる環境を整える ・自然災害の激甚化・頻発化に対する地域での情報提供・把握・備えの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン開催準備 	地域診断				
	サロン開催	サロン開催	サロン開催	サロン開催	サロン開催	サロン開催
	地域づくり加速化事業 伴走支援	ブラッシュアップ		第3回支援日	ブラッシュアップ	
	一人暮らし高齢者宅を訪問し健康状態や困りごとをアウトリーチ。サロンへの参加を勧める。	訪問活動				
	社会資源・地域の集いの場調査	社会資源・集いの場の調査				
	災害時要支援者の把握・数値化・みえるか	要支援者数値化・みえるか				
・サロン情報発信 情報紙やチラシ作成・配布	情報紙/チラシ作成・配布		作成・配布		作成・配布	
・R8年度に向けて	なんでも相談申込用紙作成・配布		相談受け付け・対処		相談受け付け・対処	
	町民からサロンに対する意見聞き取り		R7年度地域づくり振り返り		R8サロン開催地区検討	
	R8年度地域づくり事業計画具体化・話し合い					

八郎潟町ですっと暮らせるためにできること

こんにちは！八郎潟町地域包括支援センターです！
八郎潟町に暮らす皆さんが、高齢になっても住み慣れた我が家でいつまでも暮らすことを目標に、私たちが今取り組んでいることを知ってください。

八郎潟町の取り組み

今年度から町内3か所に「サロン」を開設しました。
「住み慣れた我が家でいつまでも暮らす」を目標に、「歳をとっても安全・安心な暮らしがしたい」「ずっと元気でいたい」「みんなで協力して何かをやってみよう」「困ったときに助けてと言える関係をつくりたい」を実現するために、皆さんと一緒に取り組んでいます。

生活支援コーディネーターの
きたじま みねこ
北嶋 峰子です！



SCミネちゃん

目指していること

『お互いを尊重しながら、
ともに支え合い
一人ひとりが誰かのために行動する
地域社会を目指す』

取り組みによって、地区の皆さんに強い絆が生まれ、団結して地域課題が解決できるよう、一人一人が主体的に活躍していただく活動となることを期待しています。

生活支援コーディネーター の紹介

令和7年4月から八郎潟町健康福祉課で「生活支援コーディネーター」をさせていただいております。私も八郎潟町に住む仲間です。「自分自身がこの町でどう暮らしたいのか？」「どう生きていきたいのか？」を考え、「住み慣れた我が家でいつまでも暮らせる」ため「一人の力」「家族の力」「みんなの力」を大切に「困った時の人頼み」ができる「地域づくり」を皆さんと一緒に頑張りたいと思っています。

八郎潟町 健康福祉課

八郎潟町地域包括支援センター

〒018-1692 秋田県南秋田郡八郎潟町宇大道80番地

電話 018-875-2835 F A X 018-875-2805

「すごろくサロン」情報

4・5・6区

令和7年10月 NO.1

八郎潟町健康福祉課では、今年8月より4・5・6区の皆さんを対象に「住み慣れた我が家でいつまでも暮らす」を目標に、「歳をとっても安全・安心な暮らしがしたい」、「ずっと元気でありたい」、「皆で協力して何かをやってみたい」、「困った時に助けると言える関係づくり」のためにすごろくサロンを立ち上げています。気軽にご参加ください。

※参加者のみなさんで開催内容を決めて活動！

活動の写真

地域の「いいところ」「いい思い出ところ」を出し合いました



地図を使って地域を知る試みをしました



一関氏のご指導ご協力のもとで組木細工「コースターづくり」に挑戦！！

すごい力作



「浦大町サロン」情報

令和7年10月 NO.2

八郎潟町健康福祉課では、今年8月より浦大町の皆さんを対象に「住み慣れた我が家でいつまでも暮らす」を目標に、「歳をとっても安全・安心な暮らしがしたい」、「ずっと元気でありたい」、「皆で協力して何かをやってみたい」、「困った時に助けると言える関係づくり」のために浦大町サロンを立ち上げています。気軽にご参加ください。

※参加者のみなさんで開催内容を決めて活動！

活動の写真

なぜ今、「サロン」が必要なのか説明会を開きました



秋田県かるた」を行い豊の秋田の練習についての話で大盛り上がり！



地域の会話を録音しました



地図を使って地域を知る試み



「クルミ転がし」おもしろかった！



「ひふみサロン」情報

令和7年10月 NO.3

八郎潟町健康福祉課では、今年8月より1・2・3区の皆さんを対象に「住み慣れた我が家でいつまでも暮らす」を目標に、「歳をとっても安全・安心な暮らしがしたい」、「ずっと元気でありたい」、「皆で協力して何かをやってみたい」、「困った時に助けると言える関係づくり」のためにひふみサロンを立ち上げています。気軽にご参加ください。

※参加者のみなさんで開催内容を決めて活動！

活動の写真

今、なぜ「サロン」が必要なのか説明会を行いました



地域の「いいところ」「いい思い出ところ」を出し合いました



皆さんから持ってきていただいた「思い出のアルバム」「秋田県中央の昭和」などの写真集を見ながら昔懐かしい話に花が咲きました



・今後の開催内容！
令和8年改正自転車運転ルール勉強会
くるみ転がし

等を予定しています

“すごろくサロン”情報

4・5・6区

令和8年1月 NO.4

“すごろくサロン”では、毎月楽しく活動しています。
活動の様子をご紹介します。



鍋敷き は、今の季節大活躍！



“くろみ転がし”
楽しかった！！



- ・5区在住の一関さんを講師に「組木細工」に取り組み“コースターと鍋敷きをつくりました。
- ・包括支援センター保健師による「認知症のお話」では、“元気はつらつ手帳を配布し日常生活に役立つことを学びました。
- ・地域の皆さんとやってみたいことはありませんか？
- ・楽しく会話・交流し地域のつながりを深めましょう！

“浦大町サロン”情報

令和8年1月 NO. 5

“浦大町サロン”では、毎月楽しく活動しています。
活動の様子をご紹介します。



- ・“浦大町サロン”では、「秋田弁かるた」や「くろみ転がし」等を行い楽しみながら会話・交流をしています。
- ・包括支援センター保健師による「認知症のお話」では、“元気はつらつ手帳を配布し日常生活に役立つ学びがありました。
- ・楽しく参加して地域のつながりを深めましょう！！



“ひふみサロン”情報

1・2・3区

令和8年1月 NO. 6

“ひふみサロン”では、毎月楽しく活動しています。
活動の様子をご紹介します。



“くろみ転がし”
楽しかった！！

- ・“ひふみサロン”では、「秋田弁かるた」や「くろみ転がし」等を行い楽しみながら会話・交流をしています。
- ・包括支援センター保健師による「認知症のお話」では、“元気はつらつ手帳を配布し日常生活に役立つことを学びました。
- ・楽しく参加して地域のつながりを深めましょう！！



鈴木ADグラレコWorld

令和7年度地域づくり加速化事業 第1回八郎湯町伴走支援

NO.1 加速化事業①
2025.8.25
八郎湯はらべ

好きなとこ
自由に話すサロン

AM
13:00-15:00

- 参加者が意欲的!
- 血圧は高い人ばかりではない
- 防犯スチアの作り手? 作らな?
- もっと遠く世代も入ったら良い。
- 町内会長 サロン説明会 行進! 自主的に! 説明会来てね!
- 男性の参加が少ない。 → 男性だけの介護予防グループ
- 男性が来れば話が広がる!
- スポーツのグラブーツリスモ。本殿の連人は男性ばかり!
- 様々な職人、連人の人がお話しが良い。人に喜ばせると自然と来ると
- スポーツ会「区対抗はやめてほしい」 → 楽しいから!
- 高齢の見えない関係 ~ 1日に町内会で行うほどしているが若い人は出てくれない
- 「回来ないと来づら。面直しを!

楽しいサロンから「地域づくり」に変えていく(どう)?

楽しいままでも良い

サロンの理念、目R7年度地域づくり加速化事業 第3回八郎湯町伴走支援

別のサロン ~ 1中のサロンの1.2.3区 ツレハシ

1也の活動から興味あるものを紹介できる

プロジェクト してみたい

地域の応援団

令和7年度地域づくり加速化事業 第1回八郎湯町伴走支援

加速化事業
2025.8.25
八郎湯はらべ

あんど餅

この活動の量を増やして!

NO.2 加速化事業
2025.8.25
八郎湯はらべ

来はいる(ひきこもり)ではない

その人の家へ会場にする

子ども向けイベントに兼ねる行事(願くお餅盆お餅)を活用

情報が多くて来られぬのかもしれない

子ども向けイベントに兼ねる行事(願くお餅盆お餅)を活用

五城目町の(元)地域おこし協会の隊にノウハウを聞く。

このらう考えていく

サロンの機能強化!

避難行動要支援者

名簿づくりと重要にしている地域福祉計画) 整理して頂く

個別計画

危険な箇所、要支援者を把握

次回10/1.5MTG
10/23 第2回会議
GRおまじのどみ

令和7年度地域づくり加速化事業 第3回八郎湯町伴走支援

加速化事業
2026.1.13
八郎湯はらべ

初期Phase ESR100

周知チラシ

完成したものをテラ→八郎湯へ

ロジックモデル

- 荒井さんのEプランニング
- 包括的活動、業務の根拠に福祉計画、NDEにも活用

ガントチャート

- 誰がいつやるか → 明確に
- 優先順位を毎月プランニング

1階使った研修者の足跡 KOB:374

R7年度地域づくり加速化事業 第2回八郎湯町伴走支援

サロンを運営しての困りごと

- 悪化の場にはいる。 → ロキ出るとおでき。専門職がいると相談の場になる。
- 出てくれない人も。
- 困りごとを出てから地域の人が相談したい。
- 「引き張っていく」-Dの存在

理念 互いの尊重しあひらとに支え合い

一人ひとりが誰かのために行動する地域社会のづくり

お互いの存在を認め合う

この場は関係とつながり

困ったときの頼り

一人ひとりが地域の目的に力をつけていく

自分たちのために行動する

誰かのために行動する

自分たちのために行動する

病院 薬局

この場集いの場をつくる

人が多く来れるように広報する(サロンの情報、報告書)

2. ユニバーサル

かわら板

フォーラム

アンケート

峰子さんの招き

峰子さんの招き

目安箱

助長 招き

GRおまじのどみ

令和7年度地域づくり加速化事業 第3回八郎湯町伴走支援

加速化事業
2026.1.13
八郎湯はらべ

目安箱(ケラシと一緒に)

- かわら板
- 民生委員定例会出席

峰子さん 招きチケット → 板作成

サロンのないところの盛りおこし → マッピング

民生委員の開催

第3回 支援を整理する

おきかき空いているスペースに声がけしておく

包括の重み。サロンの目的をケア等にも関わってもらう

かわら板? ケラシ? に入れる

サロン等の取り組みについてサービス事業所に知ってもらう

小多機に場所の提供してもらえ!

地域づくり加速化事業伴走支援を受け 八郎潟町がいただいたもの



- ① “地域づくり”の土台となる基礎的手法
- ② 具体化、見える化、データ化で現状・傾向を掴み地域に合った関わり方・対応を考える
- ③ 施策の論理的構造であるロジックモデルや遂行するためのガントチャート作成の意義、作成法(手段と目的を見誤らない)を修得し健康福祉課の課室ができた
- ④ 施策の進捗管理が可能となり最終アウトカムの実現性を高めることができる
- ⑤ 今後、計画をPDCAサイクルに沿って見直し・修正するための評価指標ができた
- ⑥ 伴走支援に関わっていただいた皆様の“八郎潟町地域づくり”に対する
優しさ！ 温かさ！ 熱意！ いただきました
- ⑦ 業務上役立つ多くの事を学ぶこととなった半年間でした。感謝です

ありがとうございました



にゃんぱち

【秋田県】

厚生局主導型伴走支援事業における 秋田県の取組について



©2015秋田県んだッチ

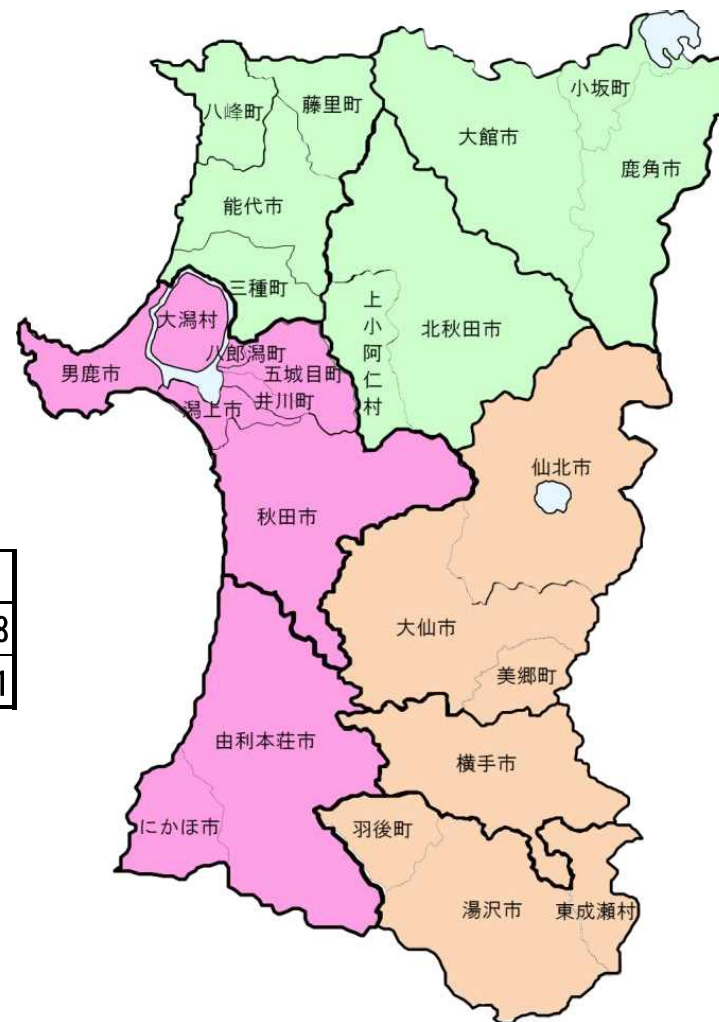
秋田県健康福祉部 長寿社会課
調整・長寿社会推進チーム

1 秋田県の概要

- 管内25市町村：13市(中核市1)、9町、3村
- 人口：881,992人(R7.7)
- 高齢者人口比率：40.3% (R7.7)
- 高齢者数、認定者数の推移(各年4月現在)

	R3	R4	R5	R6	R7
第1号被保険者数	361,024	360,732	358,910	356,844	354,558
要介護等認定者数	74,703	74,113	72,927	72,876	72,631

※ 令和3年をピークに減少



2 県による伴走支援の取組

○支援体制の構築

- ・県長寿社会課 3名
- ・専門職(秋田県自立支援・介護予防普及アドバイザー) 3名
- ・県社会福祉協議会 2名

※令和7年度地域づくり加速化事業の目的(R7.7.2オリエンテーション)
「今後、こうした伴走的支援を地域に根差した形で展開していくため、(中略)地域で活動するアドバイザーを養成するなど、地域レベルでの取組を一層促進していく。」

○支援当日の進行、支援後の記録作成

- ・現地支援の当日は司会、支援後は会議録を作成

○支援の合間の進捗確認等

- ・適宜、進捗を確認(次回支援に向けて悩んでいることはないかなど)

3 伴走支援を通しての気づき

○「地域のありたい姿」から考える

ありたい姿から逆算して、そのためにはどういう状態になっていけばよいか、その状態を達成するためにはどのような施策を行えばよいか、逆算しながら考えていくバックキャストिंगの考え方が有効(ロジックモデル)

○心理的安全性の確保

悩みや困りごとを率直に話し合える関係性の構築。異なる意見も適切に言い換えて伝える。

○ティーチングではなくコーチング

対話の中で気づきを促し、答えを引き出す。考えを押しつけない。

4 今後に向けて

○定期的なフォロー

厚生局主導型伴走支援は終了。今後は県として支援。

○伴走支援の取組・成果を県内市町村へ共有

伴走支援で得られたことを市町村に還元したい。

八郎潟町チームの皆さま
大変ありがとうございました！



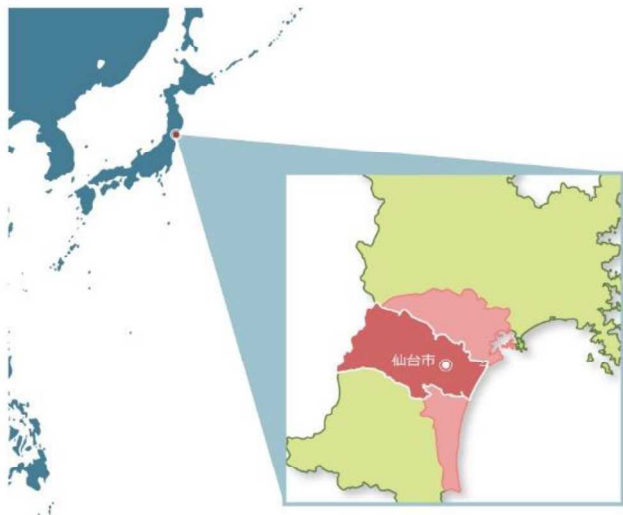
©2015秋田県んだッチ



令和7年度地域づくり加速化事業における 総合事業見直しの取組みについて

宮城県仙台市
令和8年3月4日

仙台市の概要



仙台市の特徴

- ・東北地方唯一の政令指定都市である。
- ・市内には広瀬川や青葉山などの自然が広がり、街路樹や公園が整備されていることから、都市でありながら豊かな緑に包まれている。
- ・仙台城跡や瑞鳳殿など、戦国武将・伊達政宗に関連する史跡が多く存在し、歴史と文化が市民生活に深く根付いている。
- ・東北大学をはじめとする高等教育機関や研究施設が多数立地しており、国内外から学生や研究者が集まる学術都市である。



区分	数値	出典・時点
①総人口	106万8人	令和7年4月1日
②高齢者人口	269,439人	令和7年4月1日
（うち前期）	120,843人	令和7年4月1日
（うち後期）	148,596人	令和7年4月1日
③高齢化率	25.4%	令和7年4月1日
（後期高齢化率）	14%	令和7年4月1日
④認定率	19.4%	令和6年10月末
⑤調整済み認定率	16.4%	令和6年3月末
⑥第9期介護保険料（月額）	6,079円	令和7年度
⑦日常生活圏域	64圏域	令和7年度

総合事業の見直しについて専門家等からの助言を もらうことで納得感を得ながら見直しを図りたい

仙台市では平成29年度から総合事業を実施しているが、サービスが多様ではなく、利用者のほとんどが従前相当サービスを利用しており、軽度者の状態改善を図ることが難しい状況となっている。また関係する課が複数にまたがっており、事業を推進する意識の醸成が十分に図られていない。併せて、関係機関及び事業者も多岐にわたるため、連携体制の構築や関係者の巻き込みが容易ではない状況にある。そのため、アドバイザーをはじめとする専門家等の助言をいただき、関係者の参画を促す手法や意識醸成を効果的に推進していきたい。

軽度者の状態改善を図るには…

専門家の助言が欲しい

→ 加速化事業への申し込み

0.5次MTを踏まえて変わった獲得目標

0.5次MTを実施して…

アドバイザー、東北厚生局、宮城県、厚生労働省の
皆さまからのご助言を踏まえた獲得目標

最初にいただいたアドバイス

仙台市は政令指定都市ということもあり、市内だけでも事業に関係する関係課が多岐にわたる。包括支援センターも53あり、様々な関係機関、事業者が存在している。そのため、異なる地域特性を踏まえ市の現状や課題を分析するとともに、それを市内外の関係者に「わがごと」として捉えていただくために進め方を工夫していく必要がある。また、委託先であっても早い段階で地域包括支援センターを巻き込んで議論を深めていく必要がある。

多くの関係者を巻きこむには

市内の連携体制を構築したい



助言を踏まえて

**市内外が多岐にわたる関係者と丁寧に対話を重ね
意識の醸成・連携体制の強化を図る**

ということがより重要な獲得目標になることを認識しました

令和7年度地域づくり加速化事業伴走支援の概要

知見を有するアドバイザーを含めた支援チーム(アドバイザー、都道府県、厚生局、厚生労働省本省等)の力添えをお借りし、令和9年度からの本格実施を見据えた**本市の総合事業の見直し**について、庁内の関係課、包括支援センター、総合事業に関係する事業者とともに議論

第1回

7月25日(金)

AM:地域包括支援センターとの意見交換
PM:アドバイザーからの講話+庁内意見交換

第2回

10月10日(金)

AM:事業者との意見交換
PM:事業者意見交換を踏まえた庁内ワーキング
11~12月にかけて庁内における**個別ワーキング**を実施

第3回

2月6日(金)

AM:事業者との意見交換
PM:見直しの内容について
本市保険高齢部長へ発表



第1回地域づくり加速化事業伴走支援について

第1回

7月25日(金)

AM:地域包括支援センターとの意見交換

PM:庁内ワーキング



内容

- AM
- 各包括の現状(業務の体制や役割、各地域に見られる特徴、地域資源等)
 - 総合事業の現状と課題
 - 総合事業の見直しに向けてどんなことが必要だと思うか
- PM
- アドバイザーからのミニ講話(総合事業の制度概要・目的・他都市事例)
 - 総合事業の見直しに向けた庁内の目線合わせ・意識醸成
 - 庁内各課で抱える課題や取り組める内容について

【現状】仙台市の人口の推移の特徴

2050年まで後期高齢者が増加する想定であり、85歳以上高齢者についても2050年まで増加する想定
 ※1,2(推計2050年までのためピークアウト不明)

	青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区
2050年時点総人口	295,315	182,128	133,922	216,743	170,724
2050年時点高齢化率(65歳以上)	34.5%	33.2%	33.5%	37.3%	42.4%
2050年時点高齢化率(75歳以上)	21.0%	19.5%	19.3%	22.9%	27.1%
2050年時点高齢化率(85歳以上)	8.2%	7.1%	6.9%	9.0%	11.3%
高齢化率(65歳以上)伸び率	149.5	154.6	149.6	146.6	153.9
高齢化率(75歳以上)伸び率	182.6	185.8	177.6	176.3	207.4
高齢化率(85歳以上)伸び率	204.4	203.9	198.5	205.3	285.2

※1仙台市、名取市、多賀城市、岩沼市、富谷市、大河原町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大衡村 ※2仙台市、名取市、富谷市、利府町、大和町

全国の傾向としては2040年が高齢化率のピーク……

本市は少なくとも2050年まで高齢化率が伸び続ける！（さらにその先の可能性もあり）

➡ 生産年齢人口の減少等もあり、介護人材不足も深刻。高齢者が元気になる仕組みや、多様なサービスを活用していかないと現在の仕組みでは崩壊してしまう……

仙台市が考える現在の総合事業の現状まとめ

- 要支援以上の認定者がほとんどを占めており、事業対象者数が全体の2.5%程度となっている。
- 送迎の需要が高く、それがあれば十分に過ごすことができる方が多い。
- サービスが限定的で、多様な選択肢が少ない。
- 訪問、通所ともに従前相当サービスの利用がほとんどを占めている。
(訪問は99.3%、通所は93.7%が従前サービス利用)
- 従前相当サービス提供事業者と比較してA～C提供事業者、団体が少ない。
- 年々地域支援事業費が増加しており、令和5年度過去最高となっている。
- 総合事業の所管が様々な課にまたがっている。
- 総合事業の認知度が低く、利用者、事業者、職員までもが内容を理解できていない
- 介護予防自主グループ、老人クラブなどの高齢化や担い手不足が進んでおり、地域資源の充実が難しい実情がある。

【課題】仙台市が考える現在の総合事業の課題感1/2

● 訪問、通所ともに従前相当サービスの利用がほとんどを占めており、サービス過剰につながっている可能性がある。

● A～Cまでのサービスに参入する仕組みが乏しく、指定基準が形式的になっている。

● 総合事情のサービス利用者は現状維持or悪化しており、利用者の状態改善(サービスからの卒業)に向かっていない可能性がある。

● 地域支援事業費が上限を突破した場合、一般財源で賄うことになり、サービスの縮小につながる可能性がある。

● どこにどんな活動をしている団体があるかなど、地域資源が見えにくい。

● 総合事業の内容が複雑なため、総合事業を希望されるような環境づくりが必要。

● 区・包括が緊急対応や多様な業務に追われ、介護予防やアセスメント、地域づくりにまで手が回っていない可能性がある

【課題】仙台市が考える現在の総合事業の課題感2/2

- 将来的に介護人材確保が厳しくなる状況から先を見据えて、利用者が改善できる仕組みを早期に準備し構築していく必要がある。
- 切り分けた内容のサービス・活動A(送迎/入浴/買い物)で対応ができる人や、短期集中のサービスCで改善が可能な人を、現状として救えていない可能性がある。
- 多様なサービスの選択肢を広げることで、需要と供給のバランスを考える必要がある。

アドバイザーからの講話

アドバイザーより



総合事業の見直しをするにあたり、**①入口 ②サービス提供時 ③出口**に切り分けて整理する必要がある



仙台市のありたい姿から、**各事業の対象者像**を明確にする必要がある



総合事業の入口問題として、認知度をあげる取り組みが必要

→ **利用者、窓口担当者の双方が分かりやすいパンフレット**を作成するとよい
(保険制度、「こうなりたい」姿のイメージ、総合事業を含めたフローチャート、各事業のイメージ写真等)

→ 医師会に事前に相談、事業を理解してもらうことで、医師から「社会的処方」として総合事業につないで
もらうことも期待できる



利用者の改善につなげるために**事業者**に条件を付して競わせることが必要



出口は「通いの場」だけではない。シルバー人材センターで働く、お風呂に自分で入れる状態を維持することで
仲間と温泉に行き続けられるなど、**本人の生活の質があがる(維持される)**ことを意識させること
も大切

第2回地域づくり加速化事業伴走支援について

第2回

10月10日(金)

AM:総合事業に係る事業者との意見交換

PM:事業者意見交換を踏まえた庁内ワーキング



内容

- AM
- 総合事業の現状、課題を踏まえた事業者の状況、取り組み内容
 - 本市としてのありたい姿について
 - ありたい姿を実現するにあたって各事業者ができること、役割分担
- PM
- 仙台市のあるべき姿の明確化について
 - どのような人が総合事業の対象者か
 - どのような対応・支援(サービス・社会資源)が考えられるか
 - 総合事業見直し内容及び各所で取り組めるものについて
 - ロードマップの作成

1 本市の高齢者の特徴や本市のありたい姿を踏まえたご意見

○認知症や判断能力が低下する高齢者になってからやりたいことをやろうという風に思ってもなかなか難しい。ACPなどご本人たちが自己決定できるうちにきちんと決めていくことが必要となる。ご家族の意向によって施設に入ったりサービスの利用につながる人が多い現状がある。若いうちからの備えをしっかりとしておくことをも文言にいれておく必要がある

○ありたい姿は元気な人向けのメッセージになっているため、すでに障害を抱えていたりする方の目線も大事だと思う。可逆的だけでなく不可逆的な要素をもっている方、後遺症を抱えていたりなどの方もいる。医療介護が必要な方は一定数いる。しっかりそういう方をサポートした上で元気な方へのメッセージを発信するとよいと思う。将来の希望を持てるということが健康寿命に影響することがある。生きたいと思う人は長生きする。将来に希望を持てることが重要

○やりたいことがすべて健康行動につながるわけではない。Youtubeをずっと見続けたい人もいる。座位行動が長いと不健康になるという研究結果はあるが、座位行動の中でも知的な行動をしていると影響は最小になる。やりたいことが全部運動に結びつかなくてもよいと考える。多様性が高齢者の方にもあるべきだと思う

—————> 様々な意見がでたが、仙台市のありたい姿の方向性としてはおおむね問題なし

2 仙台市のありたい姿の実現に向けてどんなサービスや取り組みがあるとよいかについて

3 ありたい姿を実現するにあたって各事業者ができること(役割分担)

○従前相当のサービスはコミュニティに近いものになっていると感じる。週に1回いけるデイサービスが迎えもあるため楽に行けるコミュニティで楽しい場所となっている。それをもう一度地域に引き戻す作業が必要になる。地域づくりでの役割付与や出口戦略が必要になると感じている。元の生活に戻ることが楽しいという形にしないといけないと感じる。生活支援コーディネーターを中心として地域側の楽しさを見いだせる必要がある

○総合事業緩和型のサービスを提供しているが、そういう団体や認可があることを認知していない方が多い。緩和型のサービスを提供している。デイサービスに通いたくないと感じている利用者は多い。卒業が一番大事なことであり、要支援の方や事業対象者の方をこれ以上要介護にしないための事業としてやっているため、いかに社会生活に復帰させるかが重要。民間で一緒になってやっているものを行政とタッグを組み、明るいイメージでやっていく必要がある

○通いたいけど通えない方が地区によっては存在してしまう。一方でデイには行きたくない方もいらっしゃる。通いの場まで通えない方も多い。町内会単位で安心して通える場があると理想だと思う

(次頁に続く)

事業者意見交換会について

- 自主グループ以上デイサービス未満の部分の支援があると包括としてはありがたい。それが従前ではなく緩和型のサービスになると思う。緩和型サービスは中学校区に1つではなくもっと多く、歩いて通える場所にある必要がある
- インフラの整備が課題になる。いままでは単独運営がベースだったがそれだと運営が厳しいという状況があると思う。共同運営を認めるという手法はあると思う。強みが異なる部分で補って運営をしていき、ある程度市の予算の中で事業所への負担を少なくして運営ができて地域にも貢献できるというフレームも必要なのではないかと思う
- 介護の事業所だけでなくドラッグストアやスポーツクラブ、カラオケや保険の窓口など、緩和型デイに通ったときにポイントや割引がもらえるといったスポンサー企業、協賛企業を募ってその企業にもメリットがあるようにwinwinの関係を構築するといったアイデアも必要になる
- こども食堂をやっているが高齢者が集まる率が多い。そこでよく気軽に集まれるご飯を食べることができる場所をつくってほしいという声が出る。そういったものがあると出かけるという意欲もでる。今後の取組みとして大人食堂を今進めていこうと思っている
- 緩和型をより緩くしていくのではあればケアプランはそこまで重要ではないと感じる。事業者でも上手に利用者の目標などを設定しているため、ダブルでプランをつくる必要があるのかを感じる
- サービスが多様になっても通えない問題がある。移送をサービスを切りはなしてできないかなと思う。地域の集まりがあってもいけない人が多くいる。外付けで安価な送迎のサービスがあれば気軽に行ける人が増える
- 例えばダンスや水泳、ジムなどの選択肢の中で総合事業も入ってくるとよいのではないか
- 社会参加ができなくなってしまうことからどんどんつながりがなくなり状態像が悪くなってしまうことが考えられるため、そういった部分の支援ができるとういのではないか

庁内ワーキングの内容について

意見交換① 仙台市のあるべき姿の明確化について

意見交換② どのような人が総合事業の対象者なのかについて

意見交換③ ②の対象者についてどのような対応・支援(サービス・社会資源)があるかについて

意見交換④ 総合事業見直しの内容及び各所で取り組めるものについて

いくつになっても、やりたいことができるまち

-住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく暮らし続けられるよう、健康づくりと自立支援を進めます-

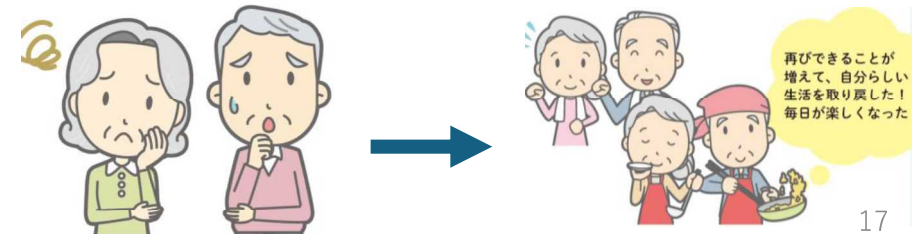
やりたいことができるまちのイメージ(理想的な住民像)

※やりたいことが分からない方はやりたいことを「見つけられる」
ようなまちをめざすというニュアンスも含めていく

例えば・・・

- 健康寿命が延び、気軽に友人との外出を楽しむことができる
- スポーツ観戦や旅行、まつりへの参加などが気軽にできる
- いきいきと自立して過ごすことができ、学びを深められる
- 行事やボランティアなどに参加することで地域での役割をもてる
- 社会参加だけでなく、就労・就業することで充実した時間を過ごすことができる
- 地域の通いの場に持続的に参加することができ、人とのつながりを感じることができる

自立して暮らし続けられ
健康ですやかに過ごせる人を増やしたい！



いままでは・・・

体力が落ちてきたから、ヘルパーさん
にお手伝いしてもらったり、デイサービ
スでお風呂の入浴などをお願いしよ
うかな・・・



身の回りのことを何でもお世話してもらうことで
活動量が落ちてしまい、元気になるどころかより介
護が必要な状態に・・・



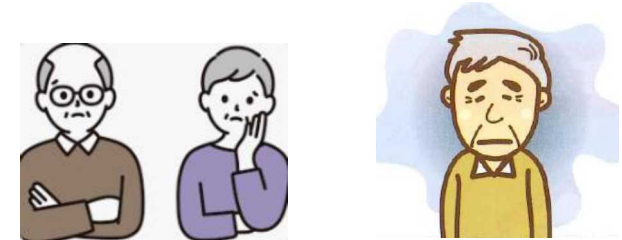
これからは

元の生活を取り戻して再び元気に！

体力が落ちてきたけど、やりたいこと
の実現のためにできることを、必要な
サービスのみ使い、日々実践



専門職などの支援により、適切な支援を行った結果、
目標だった遠くのスーパーでの買い物や自宅での
掃除ができるように！趣味だった野球観戦にも行
けるように！



※「いままでは」の内容にならないようにすでに意識して取り組まれている事業者もいるため周知していく際には表現に注意が必要

庁内ワーキングの内容について

どのような人が総合事業の対象者なのかについて
 どんな支援が必要なのかについて

【ワークシート①】			
	どのような人が総合事業の対象者?	どんな支援が必要?	該当事業は?

ありたい姿を達成するための目標について
 取り組みの内容について

【ワークシート②】目標達成に向けた取り組みシート		
チーム名		
チームが取り組む課題		
仙台市のありたい姿を達成するための 目標 ・どうしたい ・どうありたい	取り組み 【目標を達成するためには、どんな取り組みが必要?】	成果指標 【目標が達成されたら どんな状態になる 何、誰が責任を担う?】

ワーキングでの班分けについて

A班 入口問題検討班

B班 サービス提供内容検討班

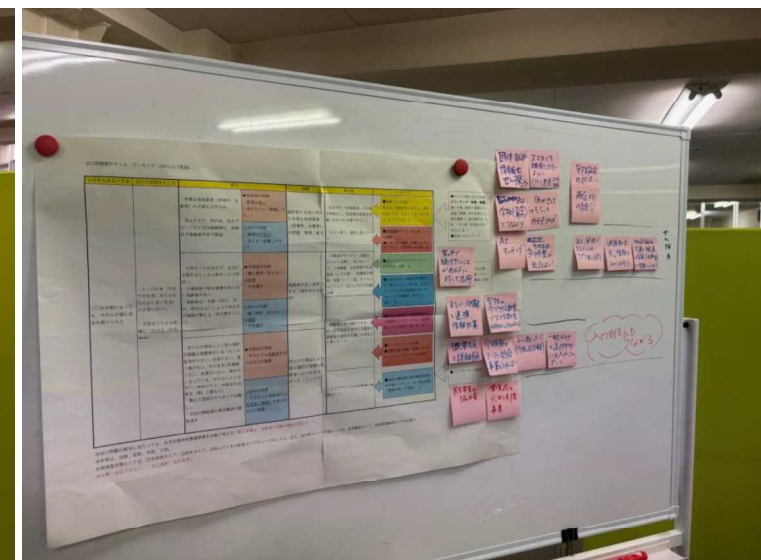
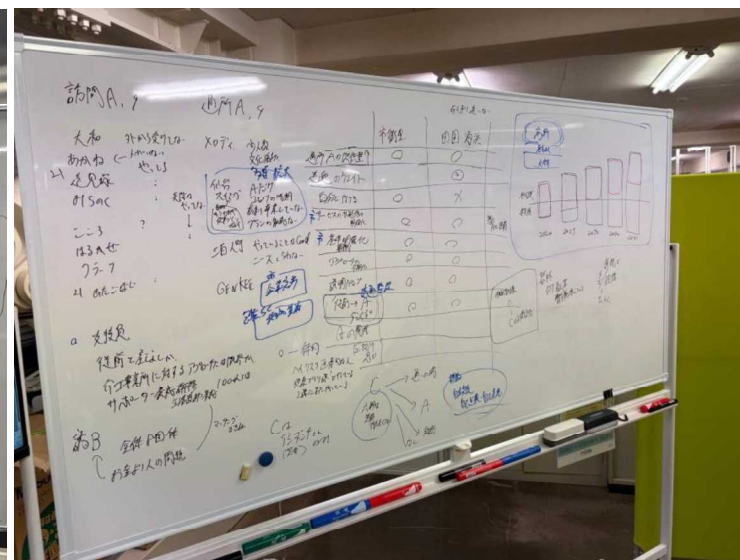
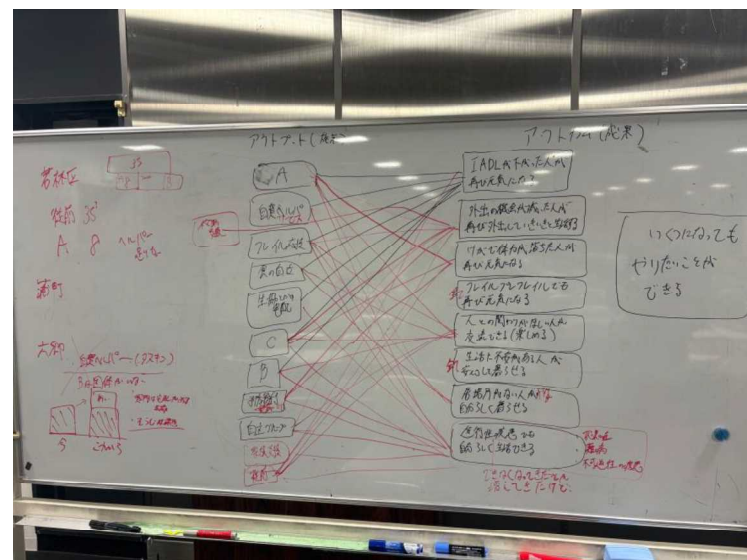
C班 介護予防ケアマネジメント検討班

D班 出口問題検討班

の4班に分けて議論を実施

個別ワーキングについて

それぞれの班で合計2回に分けて 個別ワーキングを実施



※入口班、ケアマネジメント班はメンバーを入れ替えて実施

第3回地域づくり加速化事業伴走支援について

第3回 2月6日(金)

AM:総合事業に係る事業者との意見交換(本市見直し素案を踏まえて)

PM:庁内ワーキング

内容

- AM
- 見直しの素案を踏まえた懸念点・新たな視点について
 - 見直しの素案について事業者ができること、役割分担について
- PM
- 事業者意見交換を踏まえた本市の見直し素案の修正
 - 令和9年度本格実施に向けたロードマップの作成
 - 取りまとめた内容について本市保険高齢部長へ発表

見直しの素案を踏まえた懸念点・新たな視点について

- ・従来相当サービスが飽和状態の現状を打開するため、緩和型の事業者が増えるように減算や新規指定の規制を打ち出すこともあるのではないかと懸念されている。
- ・地域における資源や供給体制を整理し、サービス・活動事業の利用者は母数を増やさずスリム化していくという視点が重要。需要と共有のバランスを考えながら、現状を把握し見直しを進めていく必要がある。
- ・配食ボランティアを実施しており、担い手には意欲の高い高齢者が生きがいづくりの場として応募いただくことが多い。そうし活動の場が増えていくと良いと感じる。

見直しの素案を踏まえた懸念点・新たな視点について

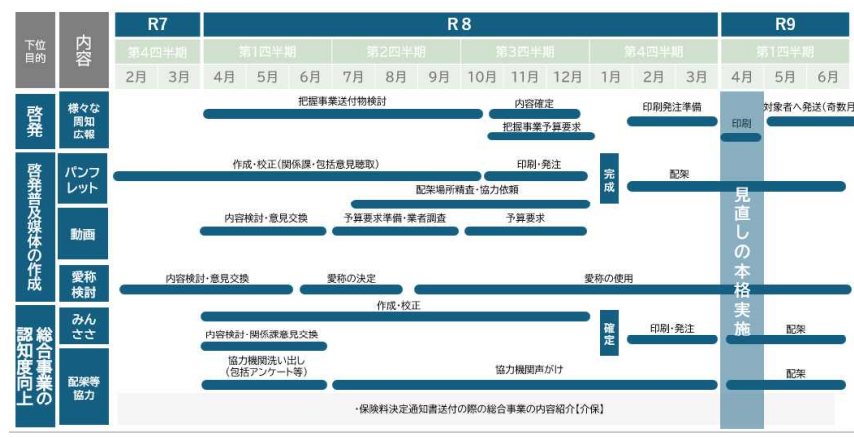
- ・介護予防を広げていく中に、高齢者の就労がポイントとなる。多様な世代の中に元気高齢者を増やせるのではないかと。集客し、マッチングできるとwinwinになるため仕掛けづくりが大切。
- ・農福連携は東北では特に必要になってくる。高齢と障害分野がタッグを組んで実施しているため検討の余地がある。
- ・困った時の相談や地域資源の検索、ボランティアポイントなどができる方はよりアクティブな方。そうしたことが難しい方を地域でどのように支えていくのかが重要。周知の方法、活動の場、など各関係団体と連携して支えていく必要がある。
- ・同じ仙台市内でも地域で社会資源は異なるため、それを踏まえて各地域の高齢者をどう支えていくかを考え総合事業を見直していく必要がある。

見直しに向けたロードマップ

入口問題検討班、サービス提供内容班、介護予防ケアマネジメント班、出口問題検討班の4つの班ごとに、具体的な見直しの内容や、役割分担、対象者、令和9年度に向けた見直しのスケジュール案について整理。→本市保険高齢部長へ報告

下位目的	内容	内容の目的	具体的な内容及び方策	メイン担当課	関係課/団体	対象
予防等の知識の啓発	様々な周知広報	<ul style="list-style-type: none"> 生き方を考える機会の提供 自分がどう生きたいか認識 市民への正しい理解の促進 適切な対象者に適切なサービスが届くようにする 事業者、関係機関との認識共有 	<ul style="list-style-type: none"> 各パンフレットやフリーペーパー、介護保険や健康関係の通知に、家族にも関心を持ってもらえそうな「生き方を考える」読み物(コラム等)を掲載(長寿社会、フレイル、社会保障費、認知症啓発等) →生活が不安定な方へも関心をもってもらえる読み物 把握事業にて75歳高齢者へ総合事業の内容紹介【地ケア】 フレイル予防、高齢者の健康づくりに関する取り組みにおける啓発の検討【地ケア・保年・健政】 「ちりばめ作戦(市政により)【例:くんぐん行きます、河北ウーグリー、ちかてつさんほ、げんき倶楽部社人、てとて、いくすべい、包括だより等】【地ケア】 地下鉄ラッピング(地ケア区画あり)【地ケア】 壮年期の方へのアプローチ企業での周知(退職者説明会等)、産業医/産業保健師への周知、商工会を通じた取組み等【関係課】 介護予防に関する情報を一元発信できる特設ページ 	地ケア 介保	区障高 区介保 包括 保年 経済局等 関係課	住民 関係課 包括 事業者 企業
媒体の作成	パンフレット作成	<ul style="list-style-type: none"> 本市総合事業の認知度向上 生き方を考える機会の提供 市民への正しい理解の促進 適切な対象者に適切なサービスが届くようにする 事業者、関係機関との認識共有 	<ul style="list-style-type: none"> どんな姿になりたいか、それを実現するためにどんなサービスや場があるかが分かるような内容(サービスや場がなくともそれを作る仕組みの案内等含む、ありがたい姿が不明確な方にもサポートできるもの) 市民が見てわかりやすいようなフローチャートを導入 内容が網羅されている詳細版と窓口にて短時間で説明できる簡易版の2つを作成 住民①(フレイル)用と住民②(フレイル・要支援)用の2種類を作成 	地ケア	区障高 包括	住民① (フレイル) 住民② (フレイル・要 支援) 関係課 包括 事業者

下位目的	内容	内容の目的	具体的な内容及び方策	メイン担当課	関係課/団体	対象
啓発普及媒体の作成	動画作成	<ul style="list-style-type: none"> 本市総合事業の認知度向上(生き方を考える機会の提供) メニューの共有 自立、改善につながる共有 利用の心理的障壁を下げる 	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業のサービスを活用すると元気になることが分かる内容を作成(ありがたい姿が不明確な方にもサポートできるもの) 実際の利用者の(サービスC等)使用前使用後が分かるように サービス終了後に何に繋がっているかを紹介 単なる制度の説明とならないように 	地ケア	包括	住民 関係課 包括 事業者
	愛称(ニックネーム)の検討	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業の本来の趣旨(介護予防・フレイル予防・自立支援)が市民に伝わりにくい現状を改善し、わかりやすくする 認知度を向上させる(八王子市事例「ハッピーチャレンジプログラム(ハチプロ)」) 	<ul style="list-style-type: none"> いくすべいのように仙台市民に伝わりやすいキーワードの検討(例:〇〇けさいん 等) フレイルの可逆性を盛り込む 「従来型」「A・B・C」「一般介護予防」それぞれに愛称を作る 例)よほよほ予防 	地ケア		住民 関係課 包括 事業者
総合事業の認知度向上	みんなで支える介護保険リニューアル	<ul style="list-style-type: none"> 本市総合事業の認知度向上(生き方を考える機会の提供) 市民への正しい理解の促進 適切な対象者に適切なサービスが届くようにする 事業者、関係機関との認識共有 	<ul style="list-style-type: none"> 説明順番を総合事業→介護給付に(ありがたい姿が不明確な方にもサポートできるもの) 総合事業と介護給付のメリットが分かる比較表掲載 	介保	地ケア 包括	住民 関係課 包括 事業者
	配架等協力依頼・調整	<ul style="list-style-type: none"> 本市総合事業の認知度向上(生き方を考える機会の提供) 行政から情報が届きにくい窓口へのリーチ 複数ステークホルダーへの情報共有の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 包括より情報収集し、圏域における店舗や関係団体への配架協力を依頼 病院、スーパー、ドラッグストア、市民センターなど高齢者の目に留まりやすい場所への協力依頼 主治医意見書を多く書いていただいている病院への協力依頼 保険料決定通知書送付の際の総合事業の内容紹介【介保】 	地ケア 介保	区障高 区介保 包括	住民 包括 事業者



ロードマップの一部

伴走支援での気づき・学び

第1回支援での気づき・学び

- 関係者間での本市の現状・課題の認識の整理
- 都市エリア/郊外エリア/人口減少エリアなどの地域特性を把握、分析した上で取り組みを進めることの重要性
- 仙台市のありたい姿を明確にする必要性



第2回支援での気づき・学び

- 事業者も含めて本市の現状・課題を共有し、同じ視点をもって意見交換を行う重要性
- どのような人が総合事業の対象者なのかやどんな支援が必要なのかを明確にする必要性
- 対象者に合わせ、現在あるものも含めて事業を整理することの重要性



第3回支援での気づき・学び

- ロードマップ作成を通じた関係者間の役割分担を明確化することの必要性
- 行政だけでなく様々な関係者とともに見直しを進めていくことの重要性
- 実現可能性を念頭において見直すべき内容を整理する必要性



伴走支援での成果及び効果

● 政令指定都市ということもあり、庁内において関係課が多数存在

——→ 多くの関係課と本市の現状や課題を共有することができ、庁内の連携を強固にすることができた

● 庁内外の多様な関係者とともに「本市のあるべき姿」を共有し、そこに向けて具体的にどんな取り組みができるのかを議論することができた

● 対象者像を明確化し、ありたい姿の実現に向けて取り組むべき内容を整理したロードマップを作成したことで、誰が何にいつ取り組むべきなのかが可視化された。そしてそれを多くの参加者とともに話し合いながら、納得感を得つつ進めることができた



仙台市 介護予防・認知症啓発
キャラクターオタツシャー

今後も庁内ワーキングを継続して開催し
令和7年度中に一定の方向性を固める予定

→ 令和8年度も継続しWG等を開催し
令和9年度から見直し内容の本格実施を行う予定

※一部事業においてR8年央からモデル実施も検討
やれるべきことを整理し、優先順位をたてて取り組みを進めていく！

いくつになっても、やりたいことができるまち
を目指して！



多くの関係者と本事業を通して“つながる”ことができました
ご清聴ありがとうございました

令和7年度地域づくり加速化事業

宮城県からの報告



宮城県保健福祉部長寿社会政策課
地域包括ケア推進班

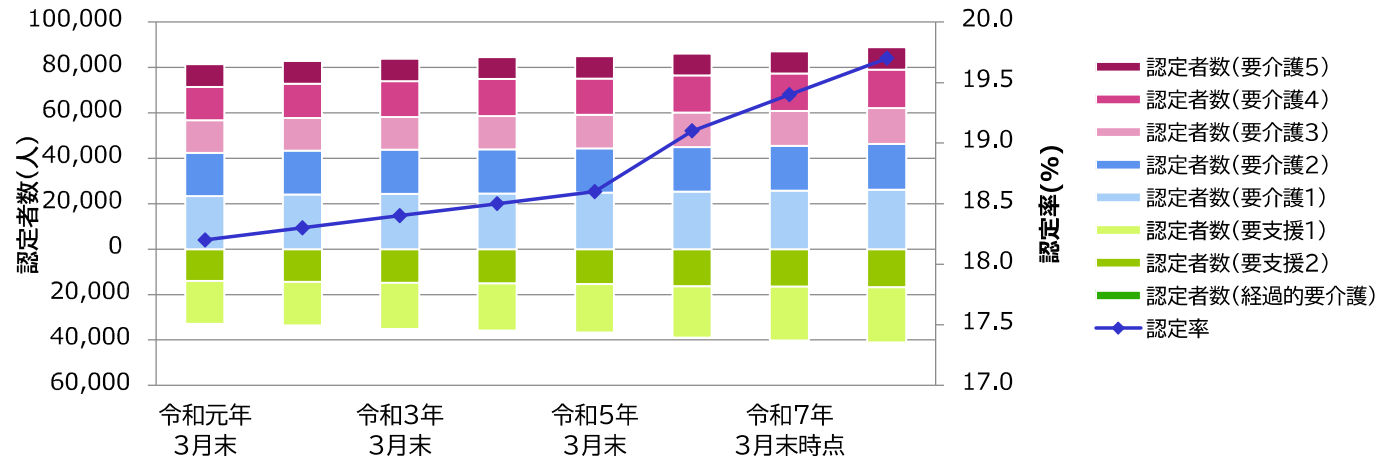


○宮城県の概要

- ・人口：2,214,330人
- ・65歳以上人口：658,415人
- ・高齢化率：29.7%
- ・管内市町村数：35市町村

(出典)宮城県「高齢者人口調査(令和7年)」調査時点 令和7年3月31日
令和7年(2025)3月末現在 住民基本台帳人口及び世帯数(日本人及び外国人)

宮城県の要介護(要支援)認定者数、要介護(要支援)認定率の推移



(出典)平成29年度から令和5年度:厚生労働省「介護保険事業状況報告(年報)」、令和6年度:「介護保険事業状況報告(3月月報)」、令和7年度:直近の「介護保険事業状況報告(月報)」



○採択自治体(仙台市)への支援①

第1回支援 (7/25)

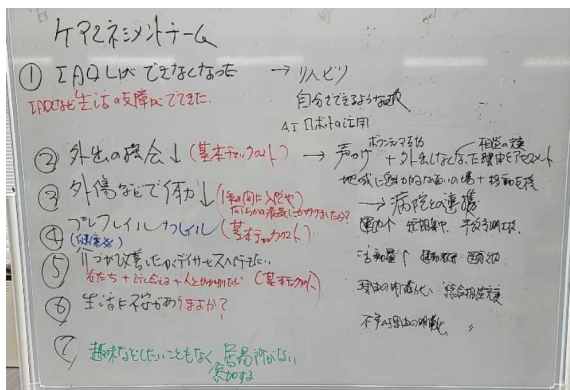
- ・総合事業の見直しに係る課題と現状課題の整理
- ・地域包括支援センターと仙台市関係課の意見交換



0.5mtg

第2回支援 (10/10)

- ・サービス事業者を交えた意見交換
- ・庁内ワーキングと合同開催



1.5mtg

1.75mtg

第3回支援 (2/6)

- ・サービス事業者を交えた意見交換
- ・庁内ワーキングと合同開催 (総合事業の見直しと具体取組内容を整理)

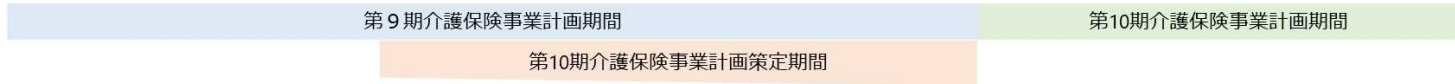


2.5mtg



○採択自治体(仙台市)への支援②

仙台市の総合事業の見直し作業スケジュール(例) (R7~)



ロードマップの作成

	令和7年度	令和8年度	令和9年度
関係課	ポイント①、②	ポイント③	
区役所	ポイント④		
地域包括支援センター			
サービス提供者			
アドバイザー	加速化事業		
国	1回目	2回目	3回目
県			

仙台市庁内WG

先進地視察

ポイント②	ポイント③	ポイント④
②3回の支援で何をどこまで達成する事を目指すのか(何を生み出したのか) →コアな部分をどこに置いて注力するか →より強く合意形成を図っておきたい関係者をどう考えるか(区・包括・事業所・関係団体・その他) 「* 支援チームとしては仙台市の人口規模や5区での資源も異なる中で、53包括(5区の職員)と一緒に生活課題の改善に導いていける住民(ターゲットとなる住民像)を共有していく事が重要と思われる」	③既存の会議体(庁内WGや地域包括ケア連絡会、他...)との連動性をどのように考えるか →中長期的なロードマップ(今年度末or10期計画策定を考慮すると来年度末!?)を作成して庁内関係者が目指していく方向性とそれに伴う作業工程を共有する →既存の会議体に関わる庁内関係者(各事業担当者等)も総合事業の見直しについて同じ目線で、事業に関わる専門職などへ働きかける	④2回目支援に向けて2回目に参加される関係者に対して、どのような意見を聞き出して、午後のグループワークに入るのか →2回目支援時の参加者が現場で実動している方、団体の代表者等、総合事業の理解も様々(おそらくあまり理解がないと推察)と思われるなか、狙いどころと着地点をどのように考えているか



○支援を通じて(担当所感)

○感じたこと

- ・市町村支援における「スケジュール管理」と「具体的取組」の重要性について

多くの自治体が「自立支援」の理念は理解してるが、それを実際の窓口業務やサービス構築に落とし込む段階で立ち止まってしまう。今回、仙台市が「入口・サービス・ケアマネジメント・出口」の4つの領域で、いつまでに・どの課が・何を準備するかを可視化したことは、改革を「担当者の努力」から「組織の仕組み」へと昇華させる極めて重要なステップであると感じた。

○今後の展開

- ・加速化支援で作成したロードマップの実行、スケジュール管理

今回のロードマップは、窓口の運用変更、事業所への報酬改定等が密接に連動している。
県としては、作成したロードマップに沿って、仙台市が実施していけるよう、進捗管理を東北厚生局と一緒に進めていきたい。



ご清聴ありがとうございました

仙台市の皆様、アドバイザーの皆様
東北厚生局の皆様、日本能率協会の皆様
ありがとうございました



©宮城県・旭プロダクション



令和7年度 地域づくり加速化事業 伴走支援（仙台市）

奈良県福祉保険部 次長 田中 明美



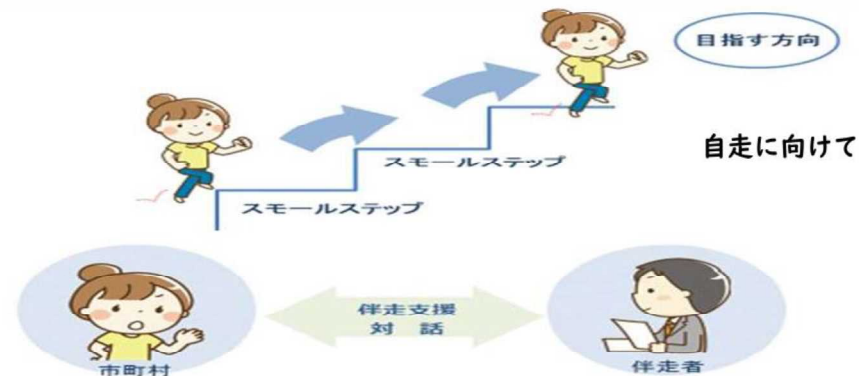
仙台市との協働作業について

政令市という大きな市をサポートするためアドバイザー（専門職）3名という配置！
作業療法士の村井さん、理学療法士の櫻井さん、保健師の私というメンバー構成。

「仙台市は、石川県そのものくらいのスケールだから、地域性の勘案が重要！」と初回、
村井さんの発言から始まり、海もあれば山間地域もあり、市街地もある仙台市の地域特性
に応じた中長期の取組をどう考えるかが肝でした！

地域づくり加速化事業は、庁内外のいろんな関係課、関係機関・関係者・住民等を巻き込
んでいく事業ですが、政令市となると簡単なことではない中で、主担当課は短い期間に多
くの機関を巻き込んで、対話する機会が設けられました。

一歩進んでは、二歩下がり、二歩下がっては三歩進むというようなことを繰り返しながら、
「連携」の難しさと重要性をひしと感じ取られた数カ月だったかと思います。
最後のロードマップの内容は、盛りだくさんだったので、ここからさらに絞り込みが必要
ですが、【仙台市のワンチーム】であれば、継続して展開ができると信じています！



伴走支援で仙台市に生じた効果

1. 政令市という大きな規模でありながら、伴走支援にエントリーされ、参事を中心に課が一丸となって課題整理に取り組めたこと
2. たくさんある課題から、庁内外の関係者と議論を重ね、成すべきことの整理を行えたこと
3. 縦割りの障壁を乗り越え、関係課との連携強化が図れたこと
4. 部長等も巻き込み、ロードマップ作成を周知し、次年度の異動にも耐えうる環境整備を行ったこと
5. 何よりも対話が重要だと職員が感じとり、スタートダッシュができたこと



支援者の大切な役割について

1. より多くの人との対話を促す場の工夫・設定等（巻き込み術）
2. 今ある仕組みを活かす方法を市町村とともに模索・検討
3. 市町村職員だけでは取り除けない障壁について、上席・管理職等の理解を促す働きかけ・情報の共有
4. 市町村の参加チームがワンチームになるための心理的サポート
5. 市町村ごとに必要な情報提供と課題の整理、取組の優先順位を検討
6. 少しずつ関与の幅を縮小していき、自走できる体制の構築



地域づくり加速化事業伴走支援について

厚生労働省東北厚生局
健康福祉部地域包括ケア推進課

地域づくり加速化事業

1 事業の目的

令和7年度当初予算案 78百万円 (89百万円) ※ ()内は前年度当初予算額

- これまで団塊世代 (1947~1949年生) が全員75歳以上を迎える**2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築を図る**ため、市町村の地域づくり促進のための支援パターンに応じた支援パッケージを活用し、①有識者による市町村向け研修 (全国・ブロック別) や②個別協議を実施しているなど総合事業の実施に課題を抱える市町村への伴走的支援の実施等を行ってきたところ。
- **令和4年12月の介護保険部会意見書**で、「総合事業を充実化していくための包括的な方策の検討を早急に開始するとともに、自治体と連携しながら、第9期介護保険事業計画期間を通じて、工程表を作成しつつ、集中的に取り組んでいくことが適当である。」との意見を受け、**令和5年度に「介護予防・日常生活支援総合事業の充実に向けた検討会」**を設置し、**第9期介護保険事業計画期間を通じた集中的な取組を促進**するため、検討会で議論を行い、令和5年12月7日に「介護予防・日常生活支援総合事業の充実に向けた検討会における議論の中間整理」を取りまとめたところ。
- 中間整理において、地域共生社会の実現に向けた基盤として総合事業を地域で活用する視点から地域の多様な主体が総合事業に参画しやすくする枠組みの構築を行うこととされたところ。
- こうした検討会での議論等を踏まえ、本事業をとおして**総合事業の充実に向けた取組を推進**していく。
そのため、令和7年度においても、引き続き、以下の取組を行う。
- ① 今後、こうした伴走的支援を地域に根差した形で展開していくため、全国8か所の地方厚生(支)局主導による支援対象を拡充するとともに地域で活動するアドバイザーを養成するなど、**地域レベルでの取組を一層促進**していく。
- ② また、令和4年12月の介護保険部会意見書で、第9期計画期間を通じて総合事業の充実^に集中的に取り組むことが適当であり、その際、地域の受け皿整備のため、生活支援体制整備事業を一層促進することとされていることを踏まえ、**生活支援体制整備事業を更に促進するためのプラットフォームの構築及び発展 (全国シンポジウムの開催含む) を図る。**

令和6年度から

2 事業の概要・スキーム

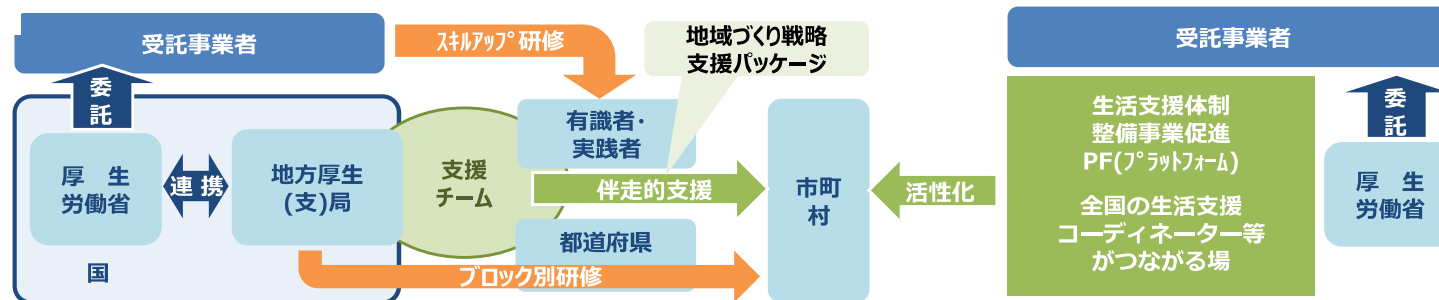
1. 地域包括ケアの推進を図るため、以下の事業により市町村を支援する。

- ① **地方厚生(支)局主導による支援パッケージを活用した伴走的支援の実施 (全国24か所)**
・地方厚生(支)局・都道府県と連携し、市町村を支援する地域の有識者・実践者の支援スキル向上に資する研修を併せて実施
- ② **自治体向け研修の実施 (各地方厚生(支)局ブロックごと)**
- ③ **地域づくり戦略や支援パッケージ(注)の改訂など地域づくりに資するツールの充実**

(注) 市町村等が地域包括ケアを進める際に生じる様々な課題を解決するための実施方法やポイントをまとめたもの。

2. 全国の生活支援コーディネーターや多様な分野の団体等がつながるためのプラットフォーム (PF)を構築・発展

<事業イメージ>



3 実施主体等

【実施主体】

- ・国から民間事業者へ委託



【補助率】

- ・国10/10

【参考】

「全世代型社会保障構築を目指す改革の道筋 (改革工程)」

(令和5年12月22日閣議決定)

令和7年度地域づくり加速化事業伴走支援の支援対象市町村

令和7年度は、3県、1市2町に対し、支援を実施（東北厚生局主導型2市町、県主導型1町）

	No	県	市町村	エントリーテーマ	アドバイザー
東北厚生局 主導型	1	秋田県	八郎潟町	町内会単位における 住民主体の通いの場の拡充	<p>メイン 荒井 崇宏 氏 東京都稲城市高齢福祉課高齢福祉係長</p> <p>サブ 鈴木 のぞみ 氏（県内で活躍する専門職） 合同会社秋田まちとケア協働舎代表</p>
	2	宮城県	仙台市	庁内外との連携と協働による 総合事業のフルモデルチェンジ	<p>メイン 櫻井 健太郎 氏（県内で活躍する専門職） 仙台東脳神経外科病院リハビリテーション室長</p> <p>サブ 田中 明美 氏 奈良県福祉保険部次長</p> <p>村井 千賀 氏 石川県立こころの病院認知症疾患医療センター副施設長</p>
県 主導型	1	青森県	大鰐町	庁内連携によるプレフレイルの 早期把握と早期介入体制の構築	<p>メイン 平川 裕一 氏（県内で活躍する専門職） 青森県作業療法士会副会長</p> <p>サブ 菊池 一 氏 千葉県松戸市高齢者支援課課長補佐</p>

令和7年度当局が特に意識したサポート

持続可能性（市町村が中長期的なビジョンをもって自走できるよう支援）を意識したサポート

支援対象市町に対して

○「現状の把握」

定量（人口動態・認定率等）及び定性（現場の意見等）の双方の情報を整理し、総合的に活用したサポート

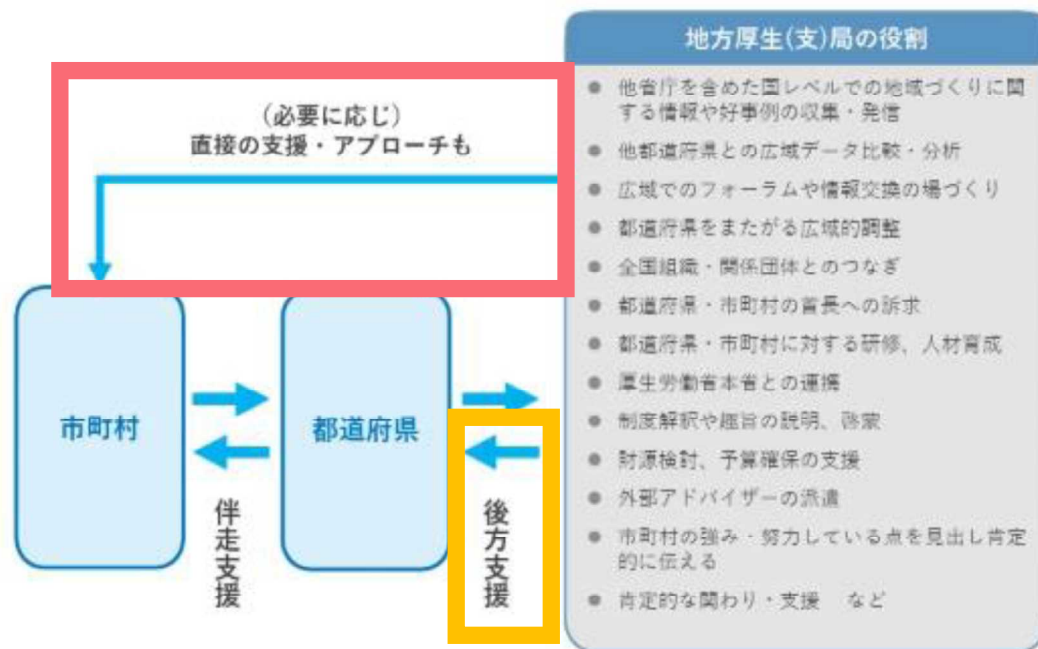
○「対話の場づくり」

参加者全員が自分ごととして考え、率直な思いを発することが出来る場づくりをサポート

支援対象市町を管轄する県に対して

○ 地域づくり支援ハンドブック(市町村の支援者向け)の紹介、活用方法に関するサポート

○ 支援内容や進捗についての共有を図り、県による伴走支援をサポート



地域づくりハンドブックVOL.2 p.23、36、39参照